Canon

EOS 60D

使用説明書

Canon
EOS 60D
使用説明書
J

はじめに

EOS 60D は、有効画素数約1800万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 4、高精度・高速9点AF、約5.3コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、Full HD（フルハイビジョン）動画撮影機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。

撮影しながら操作すると理解が深まります

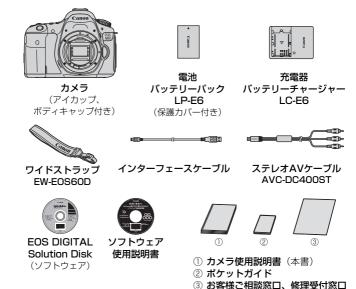
デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（12、13ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

このカメラでは、SDメモリーカードとSDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードをお使いいただけます。本書では、これらを「カード」と表記しています。

※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（アイカップ、ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
LP-E6
（保護カバー付き）

充電器
バッテリーチャージャー
LC-E6

ワイドストラップ
EW-EOS60D

インターフェースケーブル

ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST

EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア
使用説明書

① ② ③

① **カメラ使用説明書**（本書）
② **ポケットガイド**
③ **お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意**

※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

ソフトウェア使用説明書について

ソフトウェアの使用説明書は、電子マニュアル（PDF形式）でCD-ROMに収録されています。ソフトウェア使用説明書の参照方法は、316ページをご覧ください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈〉　　　　　　　　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈〉　　　　　　　　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈〉〈▲▼〉〈◄►〉　：マルチコントローラーと、マルチコントローラーを押す方向を示しています。
〈SET〉　　　　　　：設定ボタンを示しています。
4／6／10／16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU　：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用　：ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（p.20）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

　：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
?　：困ったときの手助けになる事項を記載しています。
!　：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
　：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています（p.28）。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- EF-S18-135mm F3.5-5.6 ISレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

目　次

3 AF ／ドライブの設定 75

4 画像に関する設定 83

5 撮影目的にあわせた応用撮影 111

機能目次

露出調整

ストロボ

ライブビュー撮影

動画撮影

画像再生

画像加工

カスタマイズ

ファインダー

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

　カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

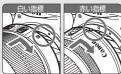
レンズについて

　レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

長時間使用時のご注意

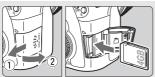
　連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

すぐ撮影するには

1

電池（バッテリー）を入れる（p.26）

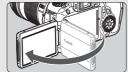
電池の充電方法については24ページを参照してください。

2

レンズを取り付ける（p.34）

レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

3

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.34）

4

スロットカバーを開け、カードを入れる（p.32）

カードの表を手前にして差し込みます。

5

電源スイッチを〈ON〉（p.28）**にして、モードダイヤルの中央を押しながら〈□〉（全自動）にする**（p.54）

6

液晶モニターを開いてセットする（p.27）

7

ピントを合わせる（p.40）

ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

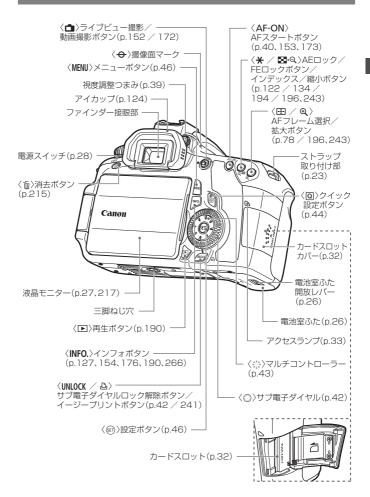
8

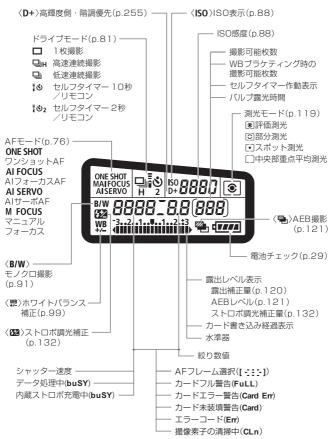
撮影する（p.40）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.50）

撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.190 ）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、57 ページを参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.190）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.215）を参照してください。

各部の名称

（p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

〈DRIVE〉ドライブモード選択ボタン（p.81）
〈ISO〉ISO感度設定ボタン（p.88）
〈◉〉測光モード選択ボタン（p.119）
〈メイン電子ダイヤル〉メイン電子ダイヤル（p.41）
〈☼〉表示パネル照明ボタン（p.43）
シャッターボタン（p.40）
赤目緩和／セルフタイマーランプ（p.131／82）
リモコン受信部（p.126）
グリップ（電池室）
DCカプラーコード通し部（p.272）
絞り込みボタン（p.117）
ミラー（p.125、233）
接点（p.13）
〈AF〉AFモード選択ボタン（p.76）
表示パネル（p.18）
EFレンズ取り付け指標（p.34）
内蔵ストロボ／AF補助光投光部（p.130／79）
EF-Sレンズ取り付け指標（p.34）
シンクロ接点
アクセサリーシュー（p.148）
マイク（p.172）
モードダイヤルロック解除ボタン（p.41）
モードダイヤル（p.20）
スピーカー（p.204）
ストラップ取り付け部（p.23）
〈ϟ〉ストロボボタン（p.129）
端子カバー
レンズロック解除ボタン（p.35）
レンズロックピン
レンズマウント

ボディキャップ（p.34）

外部マイク入力端子（p.184）
HDMIミニ出力端子（p.209）
映像／音声出力・デジタル端子（p.212、236）
リモコン端子（p.124）

〈 〉ライブビュー撮影／
動画撮影ボタン(p.152 ／ 172)
〈 〉撮像面マーク
〈MENU〉メニューボタン(p.46)
視度調整つまみ(p.39)
アイカップ(p.124)
ファインダー接眼部
電源スイッチ(p.28)
〈 〉消去ボタン
(p.215)
液晶モニター(p.27、217)
三脚ねじ穴
〈 〉再生ボタン(p.190)
〈INFO.〉インフォボタン
(p.127、154、176、190、266)
〈UNLOCK ／ 〉
サブ電子ダイヤルロック解除ボタン／
イージープリントボタン(p.42 ／ 241)
〈 〉設定ボタン(p.46)
カードスロット(p.32)
〈AF-ON〉
AFスタートボタン
(p.40、153、173)
〈 ／ 〉AEロック／
FEロックボタン／
インデックス／縮小ボタン
(p.122 ／ 134 ／
194 ／ 196、243)
〈 ／ 〉
AFフレーム選択／
拡大ボタン
(p.78 ／ 196、243)
ストラップ
取り付け部
(p.23)
〈Q〉クイック
設定ボタン
(p.44)
カードスロット
カバー(p.32)
電池室ふた
開放レバー
(p.26)
電池室ふた(p.26)
アクセスランプ(p.33)
〈 〉マルチコントローラー
(p.43)
〈 〉サブ電子ダイヤル(p.42)
Canon
OFF
MENU
INFO.
SET
UNLOCK
AF-ON
CARD OPEN
PUSH EJECT

表示パネル

状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

　モードダイヤルは、モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら回します。

C：カメラユーザー設定

　撮影モード（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）やAFモード、メニュー機能などを登録して撮影することができます（p.262）。

応用撮影ゾーン

　思いどおりのさまざまな撮影ができます。

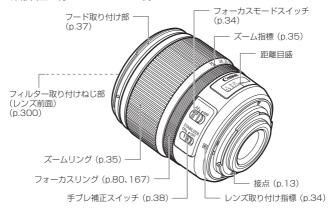
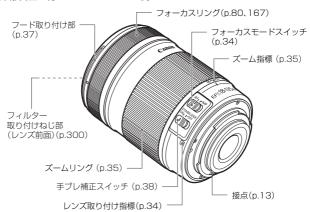
P　：プログラムAE（p.112）
Tv：シャッター優先AE（p.114）
Av：絞り優先AE（p.116）
M　：マニュアル露出（p.118）
B　：バルブ（p.123）

かんたん撮影ゾーン

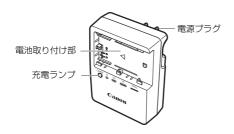
　基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

□：**全自動**（p.54）
：**ストロボ発光禁止**（p.58）
CA：**クリエイティブ全自動**（p.59）

イメージゾーン

：ポートレート（p.62）
：風景（p.63）
：クローズアップ（p.64）
：スポーツ（p.65）
：夜景ポートレート（p.66）

：**動画撮影**
（p.171）

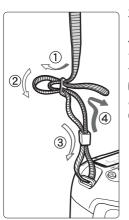
レンズ

距離目盛が付いているレンズの例

距離目盛が付いていないレンズの例

バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6の充電器です（p.24）。

注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

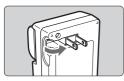
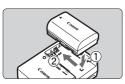
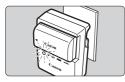
撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.124）。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1回／秒：点滅
50～74%		2回／秒：点滅
75%以上		3回／秒：点滅
充電完了	緑	点灯

- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長く（最長約4時間）なります。

電池と充電器の上手な使い方

● **充電は、使用する当日か前日にする**

充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

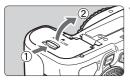
● **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**

充電済みの電池に保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈□〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**

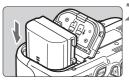
電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因になります。保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

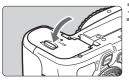
● **充電器は海外でも使うことができる**

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**

電池の劣化度（p.268）を確認したうえで、新しい電池をお買い求めください。

- 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残容量（p.268）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6以外は充電できません。

電池を入れる／取り出す

入れ方

充電したバッテリーパック LP-E6をカメラに入れます。

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

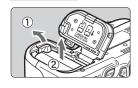
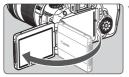
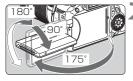
2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6以外は使用できません。

取り出し方

ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

液晶モニターを使う

液晶モニターを開いてメニュー機能の設定や、ライブビュー撮影、動画撮影、画像の再生を行います。液晶モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

1 液晶モニターを開く

2 液晶モニターを回転させる

- 液晶モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

3 画面を表向きにする

- 通常は、画面を表向きにして使用します。

液晶モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないよう注意してください。

- カメラを使わないときは、液晶モニターを閉じてください。画面を保護することができます。
- ライブビュー撮影と動画撮影で、液晶モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。
- 液晶モニターの角度によっては、閉じきる前に表示が消えることがあります。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻の設定画面が表示されたときは、30ページを参照して日付/時刻を設定してください。**

〈ON〉：カメラが作動します。
〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈 〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.40）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが故障ではありません。

オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約 1 分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.40）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［**オートパワーオフ**］で変更することができます（p.50）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅（）したら、もうすぐ電池切れになります。

表示						
残量（%）	100〜70	69〜50	49〜20	19〜10	9〜1	0

撮影可能枚数の目安

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	約1600枚	約1400枚
50%ストロボ撮影	約1100枚	約1000枚

- 撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E9使用時の撮影可能枚数
  - LP-E6×2個使用時：カメラ単体時の約2倍
  - 単三形アルカリ乾電池使用時（常温23℃）：ストロボなしで約550枚、ストロボ50%使用で約410枚

- 下記の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける。
  - ・AFのみ行って撮影しない操作を頻繁に行う。
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する。
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、153ページを参照してください。
- メニュー［**バッテリー情報**］で、電池の状態を詳しく確認することができます（p.268）。
- バッテリーグリップ BG-E9に単3形電池を使用したときは、4段階表示になります（[/]は表示されません）。

MENU 日付／時刻を設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻の設定が解除されているときは、電源を入れると日付/時刻の設定画面が表示されますので、手順3、4の操作で設定してください。なお、**撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。**

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 ［🔧:］タブの［日付/時刻］を選ぶ

- 〈✜〉の〈◄►〉を押して［🔧:］タブを選びます。
- 〈✜〉の〈▲▼〉を押して［**日付/時刻**］を選び、〈(SET)〉を押します。

3 日付/時刻を設定する

- 〈✜〉の〈◄►〉を押して項目を選びます。
- 〈(SET)〉を押して、〈⇳〉の状態にします。
- 〈✜〉の〈▲▼〉を押して設定し、〈(SET)〉を押します（□の状態に戻ります）。

4 設定を終了する

- 〈✜〉の〈◄►〉を押して［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 日付/時刻が設定され、メニューに戻ります。

カメラから電池を取り出して保管したり、カメラの電池残量がなくなったときは、日付/時刻の設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。

設定した日付/時刻のカウントは、手順4で〈(SET)〉を押したときに始まります。

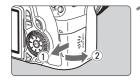
MENU 表示言語を選ぶ

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 ［¥:］タブの［言語］を選ぶ

● 〈◎〉の〈◀▶〉を押して［¥:］タブを選びます。
● 〈◎〉の〈▲▼〉を押して、[言語]（上から3番目の項目）を選び、〈SET〉を押します。

3 言語を設定する

● 〈◎〉の〈▲▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。
➡ 表示言語が切り換わります。

SD カードを入れる／取り出す

　このカメラでは、SD/SDHC/SDXCメモリーカードを使うことができます。撮影した画像は、カード（別売）に記録されます。

カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方

1 カバーを開ける

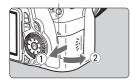
- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

書き込み禁止スイッチ

2 カードを入れる

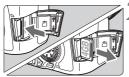
- **図のようにカードの表を手前にします。**
- カードをまっすぐにして、突き当たるまで差し込みます。

撮影可能枚数

3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にするとアクセスランプが点滅し、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- メニュー［**カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.278）。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開ける

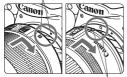
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 液晶モニターに「書き込み中」が表示されていないことを確認します。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**

2 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合により、カードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因になります。**
  - **・カードスロットカバーを開ける**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から撮影されないことがあります（p.106）。
- カードの接点は、指や金属が触れないように注意してください。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（p.48）。正常な状態に戻ることがあります。
- UHS（Ultra High Speed）対応のSDHCカード、SDXCカード使用時は、最高でSDスピードクラス10相当の書き込み速度になります。

レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

白い指標

赤い指標

2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（Auto Focus：自動ピント合わせ）にする

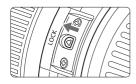
- 〈MF〉（Manual Focus：手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

EF-S18-200mm F3.5-5.6 ISをお持ちの方へ

持ち運びの際にズームリングが動いて、レンズが伸び出ることを防ぐことができます。レンズをワイド端（18mm）にして、レンズ側面のズームリングロックレバーを〈**LOCK**〉方向にスライドさせます。ワイド端以外では、ロックできません。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

レンズフードの使い方

　レンズフードを使用すると、ゴーストやフレアーを引き起こす光線を、ある程度カットすることができます。また、雨/雪/ホコリなどからレンズ前面を保護することができます。
　なお、レンズフードは通常別売ですが、レンズキットによっては付属していることがあります。

フードとレンズに取り付け指標が「ない」場合

フードを取り付ける

- フードを矢印の方向に回して、確実に取り付けます。

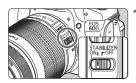
フードとレンズに取り付け指標が「ある」場合

1 フードとレンズの指標を合わせる

- フードとレンズ先端の赤い〈●〉を合わせます。

2 フードを取り付ける

- 図の矢印の方向にフードを回し、フードの〈−○〉とレンズの〈●〉を合わせます。

- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。
- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- カメラの内蔵ストロボを使用するときはフードを外してください。ストロボ光にケラレが生じることがあります。

フードは、レンズに逆向きにかぶせて収納することができます。

レンズの手ブレ補正機能について

ISレンズに内蔵された手ブレ補正機能を使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF-S18-135mm F3.5-5.6 ISレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈**ON**〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

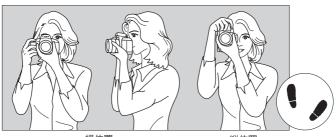
3 撮影する

● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

● 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
● 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

● 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉どちらのときでも働きます。
● 三脚使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすると、電池の消耗を防ぐことができます。
● 一脚使用時にも、手ブレ補正効果が得られます。
● 手ブレ補正機能付きレンズの中には、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードを任意に切り換えることができるレンズがありますが、下記のレンズでは、モード切り換えは自動的に行われます。
・EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II ・EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS
・EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM ・EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

● ファインダー内のAFフレーム（9つの四角い枠）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
⑥片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、57ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

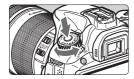
半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます（4）。

全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

● 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
● メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

モードダイヤル

モードダイヤルは、ダイヤル中央のボタンを押しながら回します。

メイン電子ダイヤルによる機能の選択と設定

(1) ボタンを押したあと、〈 〉を回す

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AFモード、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈 〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

◎ サブ電子ダイヤルによる機能の選択と設定

(1) ボタンを押したあと、〈◎〉を回す

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AFモード、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択・設定などに使用します。

(2) 〈◎〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

UNLOCKボタンの操作

応用撮影ゾーンのメニュー［Ψ: ◎**ロック**］を［**する**］に設定すると、サブ電子ダイヤルが不用意に回って、下記の設定が変わってしまうことを防ぐことができます。

・露出補正（撮影モードが**P**/**Tv**/**Av**のとき）
・マニュアル露出時の絞り数値設定
・バルブ撮影時の絞り数値設定

サブ電子ダイヤルの下にある〈UNLOCK〉ボタンは、［◎**ロック：する**］が設定されているときに、一時的に［◎**ロック**］を解除して、上記の設定をできるようにするためのボタンです。〈UNLOCK〉ボタンを押してから（4）〈◎〉を回します（動画撮影時は16）。

マルチコントローラー操作

- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動は、8方向に動かすことができます。
- メニューやクイック設定画面の操作では、〈▲▼〉〈◄►〉方向のみで、斜め方向に動かすことはできません。

表示パネルの照明

表示パネルの照明は、〈 〉ボタンを押すたびに点灯（6）／消灯します。バルブ撮影時は、シャッターボタン全押しで照明が消えます。

撮影機能の設定状態を表示する

〈INFO.〉ボタンを何回か押すと、撮影機能の設定状態が表示されます。表示された状態でモードダイヤルを回すと、各撮影モードの状態を確認することができます（p.266）。〈Q〉ボタンを押すとクイック設定画面に切り換わります（p.44、67）。〈INFO.〉ボタンを押すと消灯します。

Q クイック設定画面の操作

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この画面を「クイック設定画面」といいます。

1 クイック設定画面を表示する

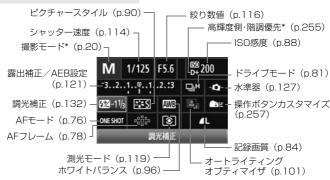
- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定画面の状態になります（⏱10）。

2 機能を設定する

- 〈✢〉の〈▲▼〉〈◀▶〉を押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ内容の説明が、画面下側に表示されます。
- 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。

かんたん撮影ゾーン

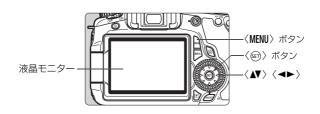
応用撮影ゾーン

3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 液晶モニターが消灯して、撮影した画像が表示されます。

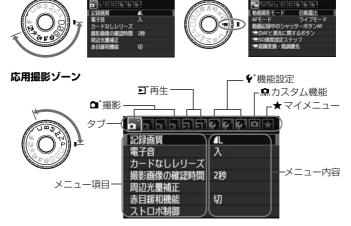
かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードによって選択できる項目が異なることがあります（p.67）。

クイック設定画面の内容

*印の機能は、クイック設定画面からは設定できません。

各機能の設定画面表示について

- クイック設定画面で機能を選び、〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます（シャッター速度と絞り数値を除く）。
- 〈◎〉または〈☼〉を回して設定を変更します。〈◄►〉を押して変更できる設定もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、クイック設定画面に戻ります。なお、〈-◘-〉と〈◘≡〉、〈⁘〉は、〈MENU〉ボタンを押すとクイック設定画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

　このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈▲▼〉〈◄►〉、〈SET〉ボタンを使って行います。

メニュー画面

　かんたん撮影ゾーンと動画撮影モード、応用撮影ゾーンでは、表示されるタブやメニュー項目が異なります。

かんたん撮影ゾーン

記録画質　4L
電子音　入
カードなしレリーズ
撮影画像の確認時間　2秒
周辺光量補正
赤目緩和機能　切

動画撮影モード

動画撮影モード　自動露出
AFモード　ライブモード
動画記録中のシャッターボタンAF
のAFと測光に関するボタン
ISO感度設定ステップ
高輝度側・階調優先

応用撮影ゾーン

撮影
再生
機能設定
カスタム機能
★マイメニュー
タブ
メニュー項目
メニュー内容

記録画質　4L
電子音　入
カードなしレリーズ
撮影画像の確認時間　2秒
周辺光量補正
赤目緩和機能　切
ストロボ制御

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

● 〈◄►〉を押してタブ(系統)を選びます。

3 項目を選ぶ

● 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

● 〈▲▼〉または〈◄►〉で内容を選びます。(〈▲▼〉で選ぶ内容と、〈◄►〉で選ぶ内容があります)

● 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

● 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

● 手順2は〈ダイヤル〉を回して行うこともできます。手順4は内容により、〈クイックコントロールダイヤル〉を回して行うこともできます。

● これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。

● メニュー機能の一覧を278ページに記載しています。

使い始める前の準備

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［ ］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 初期化する

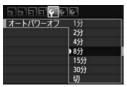
- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

- 物理フォーマットを行うときは、〈 〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

こんなときに［カード初期化］を行います

- **新しく買ってきたカードを使うとき。**
- **ほかのカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき。**
- **カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき。**
- **カードに関するエラーが表示されたとき**（p.291）。

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- 新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、Microsoftからライセンスされた exFAT技術を搭載しています。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電源が自動的に切れるまでの時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[**切**] に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、電源が入ります。

1 [オートパワーオフ] を選ぶ

- [**ᛉ˙**] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 時間を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

[**切**] に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは [**ホールド**]、撮影画像を表示しないようにするときは [**切**] に設定します。

1 [撮影画像の確認時間] を選ぶ

- [**◘˙**] タブの [**撮影画像の確認時間**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 時間を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

[**ホールド**] に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで表示されます。

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1 [カメラ設定初期化] を選ぶ

- [🔧] タブの [**カメラ設定初期化**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ [**カメラ設定初期化**] を行うと、カメラの設定が次のようになります。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
AFフレーム選択	自動選択
測光モード	◉（評価測光）
ISO感度	A（オート）
ISOオート	上限3200
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
◎ロック	しない
カスタム機能	そのまま

画像記録関係

記録画質	◢L
ピクチャースタイル	スタンダード
オートライティングオプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定関係

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告	しない
AFフレーム表示	しない
ヒストグラム	輝度
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
日付/時刻	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
INFO.ボタンで表示する内容	全項目選択
カメラユーザー設定	そのまま
著作権情報	そのまま
HDMI機器制御	切
Eye-Fi通信	しない
マイメニューの内容	そのまま

ライブビュー撮影関係

ライブビュー撮影	する
AFモード	ライブモード
グリッド	表示しない
アスペクト比	3：2
露出Simulation	する
静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒

動画撮影関係

動画撮影モード	自動露出
AFモード	ライブモード
動画記録中のシャッターボタンAF	しない
のAFと測光に関するボタン	[0]
ISO感度設定ステップ	1/3段
高輝度側・階調優先	しない
動画記録サイズ	1920×1080
録音	オート
静音撮影	モード1
測光タイマー	16秒
グリッド	表示しない

2

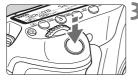
かんたん撮影

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます（p.276）。また、誤操作による失敗を防ぐため、主要な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

オートライティングオプティマイザ機能について

かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能が働きます。応用撮影ゾーンでも初期状態で機能します（p.101）。

□ 全自動で撮る

1 モードダイヤルを〈□〉にする

AFフレーム

2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

- すべての AF フレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- 中央の AF フレームを被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

合焦マーク

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボが上がっているときは、手で押し下げて収納します。

? こんなときは

- **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**

  明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.80）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

- **複数のAFフレームが同時に光る**

  赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

- **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

  動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

  レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

- **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

  逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。

- **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

  AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離は約4mです。

- **ストロボが発光したのに暗い写真になった**

  写したいものから離れすぎています。5m以内を目安に撮影してください。

- **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

  写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉（全自動）では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈🏃〉スポーツを除く）。

動いているものを撮影する

〈□〉（全自動）では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

〈◘〉ボタンを押すと、液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。これをライブビュー撮影といいます。詳しい撮影方法は、151ページを参照してください。

1 液晶モニターに撮影する映像を表示する

- 〈◘〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

2 ピントを合わせる

- 画面中央のAFフレーム〈□〉を被写体に合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈◘〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

液晶モニターの向きを変えて（p.27）撮影することができます。

通常のアングル

ローアングル

ハイアングル

〈ストロボ発光禁止アイコン〉 ストロボが使えない場所で写す

美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈ストロボ発光禁止アイコン〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。

撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

暗い場所では、撮影が終わるまで写される人が動かないようにします。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

〈CA〉クリエイティブ全自動で撮る

〈□〉全自動モードでは、すべてカメラまかせの撮影ですが、〈CA〉クリエイティブ全自動モードでは、ピントが合う範囲やドライブモード、ストロボの発光を簡単な操作で設定することができます。

また、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈□〉（全自動）と同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする

2 〈Q〉ボタンを押す

➡ 液晶モニターにクイック設定画面が表示されます。

3 機能を選ぶ

● 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ内容の説明が、画面の下側に表示されます。

● 機能の設定方法と内容については、60、61ページを参照してください。

4 撮影する

● シャッターボタンを押して撮影します。

撮影モードを切り換えたり、電源スイッチ〈OFF〉で電源が切れると、設定した内容が初期状態に戻ります。ただし、セルフタイマー／リモコンの設定はそのまま保持されます。

①雰囲気を選んで撮影する

　どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。〈◀▶〉を押して選びます。〈◎〉または〈◎〉でも選ぶことができます。詳しくは、68ページを参照してください。

②背景をぼかす／くっきりさせる

　カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。背景をぼかしたいときは、62ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。〈◀▶〉を押して設定します。〈◎〉または〈◎〉でも設定することができます。

　なお、使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。ストロボが上がっていると設定できません（灰色表示）。また、ストロボ撮影時は設定が無効になります。

③ ドライブモード/ストロボの発光

〈SET〉を押すと、ドライブモードとストロボの設定画面が表示されます。設定後、〈SET〉を押すとクイック設定画面に戻ります。

ドライブモード：〈〉を回して設定します。

〈〉（低速連続撮影）は、1秒間に最高約3枚の低速連続撮影を行うことができます。

〈〉（セルフタイマー：10秒/リモコン）は、シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。82ページの『セルフタイマー撮影』の （ノート）を参考にして撮影します。リモコン撮影も行うことができます（p.126）。

* クイック設定画面が表示されていない状態で〈DRIVE〉ボタンを押すと、表示パネルを見ながら〈〉または〈〉を回して同じ内容を設定することができます。

ストロボ：〈◀▶〉を押して設定します。

〈^{A}〉（ストロボ自動発光）、〈〉（ストロボ発光）、〈〉（ストロボ発光禁止）を選ぶことができます。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈 〉（ポートレート）を使用します。〈 〉（全自動）よりも肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**
  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**
  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。

- シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約3枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。
- 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

風景を写す

広がりのある風景や夜景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈 〉（風景）を使用します。〈 〉（全自動）よりも空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。

撮影のポイント

● **ズームレンズは広角側にする**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

〈 〉はストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈 〉（夜景ポートレート）に設定し、カメラを三脚に固定して撮影します（p.66）。

🌷 花や小物を大きく写す

花や趣味の小物などの写真を大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものに、できるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈🌷**0.45m/1.5ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの右肩に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

暗い場所ではストロボが発光します。近づきすぎて画面の下側が不自然に暗くなる場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

〈⛷〉動きのあるものを写す

子どもの走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈⛷〉（スポーツ）を使用します。

撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるよう、できるだけ望遠レンズを使用します。

● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約5.3枚）して動きの変化を写すことができます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

🌃 夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈🌃〉（夜景ポートレート）を使用します。

撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。

● **人物との距離は5m以内にする**

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。人物との距離を5m以内にすると、ストロボ光が届きます。

● **〈□〉（全自動）でも撮影しておく**

ブレた写真になりやすいので、〈□〉（全自動）でも撮影しておくことをおすすめします。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時は、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

Q クイック設定画面について

かんたん撮影ゾーンで〈Q〉ボタンを押すと、下記のクイック設定画面が表示され、表に示した「○」の項目が設定できるようになります。設定方法は、44ページを参照してください。

かんたん撮影ゾーンの各撮影モードで設定できる機能

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

項目			(p.54)	(p.58)	(p.59)	(p.62)	(p.63)	(p.64)	(p.65)	(p.66)
ドライブ	1枚撮影		○	○	○		○	○		○
	連続撮影	低速			○	○				
		高速							○	
	セルフタイマー：10秒/リモコン		○	○	○	○	○	○	○	○
ストロボの発光		自動発光	●		○	●		●		●
		強制発光			○					
		発光禁止		●	○		●		●	
雰囲気を選んで撮影する（p.68）					○	○	○	○	○	○
明かりや状況にあわせて撮影する（p.71）						○	○	○	○	
背景：ぼかす/くっきり（p.60）					○					

雰囲気を選んで撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈□〉（全自動）と〈⚡︎〉（ストロボ発光禁止）を除く撮影モードでは、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。

雰囲気	□	⚡︎	CA	人物	風景	接写	スポーツ	夜景	雰囲気の効果
①標準設定			○	○	○	○	○	○	設定なし
②くっきり鮮やかに			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
③ふんわりやわらかく			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
④暖かくやさしく			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
⑤しっとり深みのある			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
⑥ほの暗くひっそりと			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
⑦明るく			○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
⑧暗く			○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
⑨モノクロ			○	○	○	○	○	○	青／白黒／セピア

1 モードダイヤルを〈CA〉〈人物〉〈風景〉〈接写〉〈スポーツ〉〈夜景〉のいずれかに設定する

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈ライブビュー〉ボタンを押して、ライブビュー撮影に切り換えます。

3 クイック設定画面で雰囲気を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲▼〉を押して［**標準設定**］を選び、画面の下側に［**雰囲気を選んで撮影する**］が表示された状態にします。
- 〈◄►〉を押して雰囲気を選びます。
- ➡ 液晶モニターに、選んだ雰囲気の仕上がりイメージが表示されます。

4 雰囲気の効果を設定する

- 〈▲▼〉を押して図の項目を選び、画面の下側に［**雰囲気の効果**］が表示された状態にします。
- 〈◄►〉を押して効果の内容を選びます。

5 撮影する

- ライブビュー表示状態のまま撮影するときは、シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影に戻るときは、〈◘〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉または撮影モード変更で［**標準設定**］に戻ります。

- ライブビュー映像で表示される雰囲気の仕上がりイメージは、撮影される画像と完全には同じになりません。
- ストロボ撮影のときは、雰囲気の効果が小さくなることがあります。
- 明るい屋外で見るライブビュー映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なることがあります。メニュー［**ƒ: 液晶の明るさ**］で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、外光の影響を受けないようにしてライブビュー映像を見てください。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押します。〈Q〉ボタンを押すとクイック設定画面が表示され、［**雰囲気を選んで撮影する**］と［**雰囲気の効果**］を設定してファインダー 撮影を行うことができます。

各雰囲気の画像特性について

① **標準設定**

各撮影モードの標準的な画像特性です。なお、〈〉は人物撮影、〈〉は風景撮影に適した画像特性になります。各雰囲気は、それぞれの撮影モードの標準設定をベースに画像特性を変えています。

② **くっきり鮮やかに**

被写体をくっきりさせる印象的な特性で、くっきり鮮やかな雰囲気の写真になります。［**標準設定**］よりも印象的な写真にしたいときに効果的です。

③ **ふんわりやわらかく**

被写体の強調感をおさえた特性で、ふんわりやわらかな雰囲気の写真になります。人物やペット、花などを撮影するときに効果的です。

④ **暖かくやさしく**

被写体の強調感をおさえた暖色系の特性で、暖かみのある、やさしい雰囲気の写真になります。人物やペットなどを暖かみのある雰囲気で撮影するときに効果的です。

⑤ **しっとり深みのある**

全体的な明るさを少しおさえながら被写体を強調した特性で、しっとり深みのある雰囲気の写真になります。人や生き物を存在感ある雰囲気で撮影するときに効果的です。

⑥ **ほの暗くひっそりと**

全体的な明るさを少しおさえた寒色系の特性で、ほの暗くひっそりとした雰囲気を表現しています。影の中にある被写体を、静かで印象的な雰囲気で撮影したいときに効果的です。

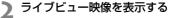
⑦ **明るく**

明るい写真になります。

⑧ **暗く**

暗い写真になります。

⑨ **モノクロ**

モノクロ写真になります。モノクロの色は、白黒、セピア、青の3色から選択することができます。

明かりや状況にあわせて撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈〉（ポートレート）と〈〉（風景）、〈〉（クローズアップ）、〈〉（スポーツ）では、明かりや状況にあわせた設定で撮影することができます。通常は［**標準設定**］で十分ですが、明かりや状況にあわせた設定にすることで、見た目の印象（記憶した色）に近い写真にできることがあります。

［**雰囲気を選んで撮影する**］（p.68）と組み合わせるときは、先にこの設定を行うと、よりよい結果が得られます。

明かりや状況	□		CA					
①標準設定				○	○	○	○	
②日なた				○	○	○	○	
③日かげ				○	○	○	○	
④くもり				○	○	○	○	
⑤電球				○		○	○	
⑥蛍光灯				○		○	○	
⑦夕焼け				○	○	○	○	

1 モードダイヤルを〈〉〈〉〈〉〈〉のいずれかに設定する

2 ライブビュー映像を表示する

● 〈〉ボタンを押して、ライブビュー撮影に切り換えます。

3 クイック設定画面で明かりや状況を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲▼〉を押して［**標準設定**］を選び、画面の下側に［**明かりや状況にあわせて撮影する**］が表示された状態にします。
- 〈◄►〉を押して、明かりや状況を選びます。
- ➡ 液晶モニターに、選んだ明かりや状況の仕上がりイメージが表示されます。

4 撮影する

- ライブビュー表示状態のまま撮影するときは、シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影に戻るときは、〈📷〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉または撮影モード変更で［**標準設定**］に戻ります。

- ストロボ撮影のときは、［**標準設定**］に切り換わります。
- ［**雰囲気を選んで撮影する**］と組み合わせるときは、設定した雰囲気の効果が活かせる適切な「明かりや状況」を設定してください。特に［**夕焼け**］は、暖かみのある色あいになりますので、設定した雰囲気の効果が活かせないことがあります。ライブビュー撮影で仕上がりのイメージを確認してから撮影してください。

各設定の効果について

① **標準設定**

標準的な設定です。

② **日なた**

日なたにある被写体を撮影するときに設定します。青空や緑をより自然に写したいときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

③ **日かげ**

日かげにある被写体を撮影するときに設定します。肌が青白く写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

④ **くもり**

くもり空の下で撮影するときに設定します。肌や風景の色が実際よりもくすんで写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

⑤ **電球**

白熱電球下で撮影するときに設定します。白熱電球の赤色を抑えたいときに効果的です。

⑥ **蛍光灯**

蛍光灯下で撮影するときに設定します。蛍光灯の種類に関係なく対応しています。

⑦ **夕焼け**

夕焼けの印象的な色を残して撮影したいときに設定します。

3

AF ／ドライブの設定

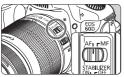
ファインダー内には、9つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを任意に選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**B**）限定の機能であることを示しています。
- かんたん撮影ゾーンでは、AFモード、AFフレーム、ドライブモードが自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: AFモードの選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAFモードが自動設定されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

3 〈AF〉ボタンを押す（⏱6）

4 AFモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉または〈ダイヤル〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレームが赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.80）を参照してください。
- メニュー［**電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- AF フレーム選択（p.78）が、自動選択のときは、初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AF を行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

AFフレームの選択 応用

9点のAFフレームの中から、ピント合わせに使うAFフレームを選びます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、AFフレーム自動選択が自動設定されますので、AFフレームの任意選択はできません。

1 〈AFフレーム選択〉ボタンを押す（6）
- ➡ 現在選択されている AF フレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- ● ファインダー内のすべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択になります。

2 AFフレームを選択する
- ● 〈SET〉を押すと、中央 AF フレーム選択と自動選択が交互に切り換わります。

電子ダイヤルによる選択

- ● 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回すと、回した方向に選択AFフレームが移動します。
- ● すべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択になります。

マルチコントローラーによる選択

- ● 〈マルチコントローラー〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。同じ方向に押すと、任意選択と自動選択が交互に切り換わります。
- ● 中央 AF フレームは、〈SET〉を押して選択します。

- 表示パネルを見ながらAFフレームを選択するときは、次の図を参考にしてください。

  自動選択[-⁻=⁻-]、中央[-]、右[-]、上[⁻]
- EOS 用外部ストロボ使用時に AF 補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈 〉〈 〉〈 〉では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、〈 〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

使用レンズの明るさとAF測距について

開放FNo.：F5.6まで

すべてのAFフレームで十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。なお一部のレンズ（p.305）では、中央以外のAFフレームが縦線、または横線検出によるAFになります（十字測距はできません）。

開放FNo.：F2.8まで*

中央AFフレームでより高精度な十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。中央AFフレームでは、他のAFフレームの約2倍の敏感度で縦横線検出が行われます。

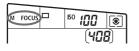
残る8つのAFフレームでは、F5.6より明るいレンズ使用時と同じ十字測距になります。

* EF28-80mm F2.8-4L USM、EF50mm F2.5コンパクトマクロを除く

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない(合焦マーク〈●〉が点滅する)ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.56）。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う。

MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

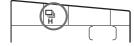
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

➡ 表示パネルに〈M FOCUS〉が表示されます。

2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択 応用

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。〈□〉（全自動）では、1枚撮影に自動設定されます。

1 〈DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 ドライブモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉または〈〉を回します。

□ ：1枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

H：高速連続撮影（最高約5.3コマ／秒）

：低速連続撮影（最高約3コマ／秒）

シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

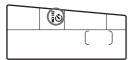
：セルフタイマー 10秒/リモコン撮影

2：セルフタイマー 2秒/リモコン撮影

セルフタイマー撮影については次ページ、リモコン撮影については126ページを参照してください。

- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。
- 室内や暗い場所では、高速シャッターが設定されていても、連続撮影速度が低下することがあります。

🕓 セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。〈🕓〉（10秒タイマー）は、どの撮影モードでも使用できます。

1 〈DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

2 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回して選びます。

🕓：10秒後に撮影
🕓2：2秒後に撮影 応用

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

- 〈🕓2〉セルフタイマー2秒は、三脚を使用した静物撮影や長秒時撮影などで、撮影開始時に、カメラから手を離しておきたい（カメラをぶらしたくない）ときに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.190）。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.124）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.56）。
- セルフタイマー撮影を中止するときは、〈DRIVE〉ボタンを押します。

4

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、レンズの周辺光量補正など、画像に関係する機能設定について説明します。

- かんたん撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質の設定、レンズの周辺光量を補正する、フォルダの作成と選択、画像番号の付けかたのみ設定が行えます。
- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**B**）限定の機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、◢L、▟L、◢M、▟M、◢S1、▟S1、S2、S3の8種類です。RAWの記録画質は、RAW、M RAW、S RAWの3種類です（p.86）。

1 ［記録画質］を選ぶ

- ［📷］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。

2 記録画質を設定する

- RAW の記録画質は〈🔘〉を回して、JPEGの記録画質は〈◀▶〉を押して選びます。
- 画面の数字「***M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（999まで表示）を示しています。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質の設定例

◢Lのみ　　RAWのみ

RAW＋◢L　　S RAW＋◢M

* RAWとJPEGの設定を、両方［−］にしたときは、◢Lに設定されます。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG	◢L	約1790万（17.9M）	A2以上	6.4	570	58
	▟L			3.2	1120	300
	◢M	約800万（8M）	A3程度	3.4	1070	260
	▟M			1.7	2100	2100
	◢S1	約450万（4.5M）	A4程度	2.2	1670	1670
	▟S1			1.1	3180	3180
	S2*1	約250万（2.5M）	L判程度	1.3	2780	2780
	S3*2	約35万（0.35M）	―	0.3	10780	10780
RAW	RAW	約1790万（17.9M）	A2以上	24.5	150	16
	M RAW	約1010万（10M）	A3程度	16.7	220	19
	S RAW	約450万（4.5M）	A4程度	11.1	340	24
RAW＋JPEG	RAW ◢L	約1790万 約1790万	A2以上 A2以上	24.5+6.4	110	7
	M RAW ◢L	約1010万 約1790万	A3程度 A2以上	16.7+6.4	160	7
	S RAW ◢L	約450万 約1790万	A4程度 A2以上	11.1+6.4	210	7

*1：S2は、市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。

*2：S3は、電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

- S2、S3は、どちらも◢（ファイン）の画質です。
- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、〈▭H〉高速連続撮影時の数値です。

用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされてしまうことがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなりますので、粒子の粗い写真になることがあります。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で、選んだ記録画質の画像がカードに同時に記録されます。2つの画像は、同じフォルダに同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で保存されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます。

RAWで撮影した画像は、メニュー［▶˙ RAW現像］（p.224）で現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます（M RAW、S RAWはカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、すべてのRAW画像は、付属のソフトウェアで、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行ったあと、その調整を反映させたJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）について

85ページの「連続撮影可能枚数」は、初期化された4GBのカードを使用したときに、連続して何枚撮影できるかを示しています。

ファインダー内の右下の数字で、連続撮影できる枚数の目安（99枚以上のときは99）が確認できます。

- 連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。
- ［C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減］を［2：強め］に設定すると、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.254）。

連続撮影可能枚数が、ファインダー内で「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、85ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

ISO: ISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます（p.89）。

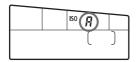
1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）

2 ISO感度を設定する

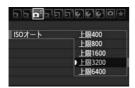
- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回します。
- ISO100～6400まで、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」を選ぶと、ISO感度が自動設定されます（p.89）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.131）。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～6400、H	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- ［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定すると、ISO100/125/160と「**H**」（ISO12800相当）は選択できなくなります（p.255）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（縞、輝点など）が目立つことがあります。

［C.Fn I -3：ISO感度拡張］を［1：する］に設定すると、「**H**」（ISO12800相当）も選択できるようになります（p.252）。

ISO感度の自動設定「A」（Auto）について

ISO感度の設定が「**A**」のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
／／／／／／	ISO100～3200自動設定
P／**Tv**／**Av**／**M**	ISO100～6400*1自動設定
	ISO100固定
B	ISO400固定
ストロボ撮影時	ISO400*2*3固定

*1：上限値設定による

*2：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる

*3：撮影モードが〈**P**〉とかんたん撮影ゾーン（を除く）で、外部ストロボのバウンス時はISO400～1600自動設定。なお、上限値を［400］または［800］に設定した場合は、設定した上限値設定になる

MENU ISO感度オート時の上限値設定について 応用

ISO感度オート時の上限値を、ISO400～6400の間で設定することができます。画質優先で画像ノイズを少なくしたいときは400/800/1600、暗い場所でシャッター速度を少しでも遅くしたくないときは3200/6400を目安に設定します。

［］タブの［ISOオート］を選び、〈SET〉を押します。ISO感度を選び〈SET〉を押します。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、ピクチャースタイルの選択はできません。

1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈SET〉を押します。
- ➡ スタイルが設定され、メニュー画面に戻ります。

各ピクチャースタイルの画像特性について

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

P ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。女性や子どもをアップで写すときに効果的です。モードダイヤルが〈 〉のときにも自動設定されます。

92ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

L 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。モードダイヤルが〈 〉のときにも自動設定されます。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

JPEGの記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、[**モノクロ**] 設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

ユーザー設定1～3

[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.94）。登録されていないときは、[**スタンダード**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の右上にある記号は、[**シャープネス**] [**コントラスト**] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている [**シャープネス**] [**コントラスト**] などの設定値を示しています。

記号の意味

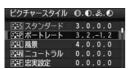
記号	意味
	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（[**シャープネス**][**コントラスト**]など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。[**モノクロ**]の調整については、次ページを参照してください。

1 [ピクチャースタイル]を選ぶ

- [ ]タブの[**ピクチャースタイル**]を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面になります。

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

3 項目を選ぶ

- [**シャープネス**]などの項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈◄►〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス	0：輪郭強調・控えめ	+7：輪郭強調・強め
コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

- 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みに合わせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。

2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- ［**ユーザー設定＊**］を選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈▲▼〉を押して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属のソフトウェアから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

● ［シャープネス］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

● 〈◄►〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.92、93）を参照してください。

● 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ ［ユーザー設定＊］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

➡ ［ユーザー設定＊］に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

● ［ユーザー設定＊］にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。

● ［カメラ設定初期化］（p.51）を行うと、［ユーザー設定＊］に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。

登録したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、［ユーザー設定＊］を選択してから撮影します。

MENU ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

● ［撮影2］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ホワイトバランスを選ぶ

● 内容を選び〈SET〉を押します。

表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
	ストロボ使用	自動設定*
	マニュアル（p.97）	2000～10000
K	色温度（p.98）	2500～10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定。

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影できます。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

スポット測光範囲

1 白い被写体を撮影する

- スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［］タブの［MWB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ MWB画像選択画面が表示されます。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。
- メニュー画面に戻ったら、〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

4 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［］タブの［ホワイトバランス］を選び、〈SET〉を押します。

5 マニュアルWBを選ぶ

- ［］を選び〈SET〉を押します。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.91）と、クリエイティブフィルターで処理された画像（p.220）は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- 付属のソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、［␣］に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色温度を設定する

- ［K］を選びます。
- 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を［K］に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

WB+/- ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

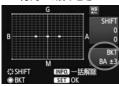
ホワイトバランス補正

1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

- [◘˙] タブの [WB補正/BKT設定] を選び、〈SET〉を押します。

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

設定例：A2, G1

- WB補正中は、ファインダー内と表示パネルに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順番について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。
- ホワイトバランス補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU オートライティングオプティマイザ 応用

撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストを補正することができます。初期状態では、[**標準**]に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正されます。

1 [オートライティングオプティマイザ]を選ぶ

- [撮影2]タブの[**オートライティングオプティマイザ**]を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

補正なし

補正あり

- [**C.Fn II -3：高輝度側・階調優先**]を[**1：する**]に設定すると、オートライティングオプティマイザが[**しない**]に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
- [**しない**]以外の設定では、露出補正、ストロボ調光補正、マニュアル露出で露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[**しない**]を設定してください。

かんたん撮影ゾーンでは、[**標準**]に自動設定されます。

MENU レンズの周辺光量を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を、「周辺光量の低下」といいますが、この現象を補正することができます。初期状態では、補正［**する**］に設定されています。

1 ［周辺光量補正］を選ぶ

- ［📷］タブの［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 表示される画面で、装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。
- ［**する**］を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

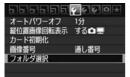
補正なし

補正あり

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。手順2で補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量が補正されます。

付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書を参照してください。

- 撮影したJPEG画像の周辺光量を、後から補正することはできません。
- 撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。

- エクステンダー装着時も周辺光量補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- 距離情報を持たないレンズでは、補正量が少なくなります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 ［フォルダ選択］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［フォルダ作成］を選ぶ

- ［**フォルダ作成**］を選び〈SET〉を押します。

3 フォルダを作成する

- ［**OK**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、フォルダを選び〈SET〉を押します。

➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。

- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.107）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_ 」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

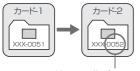
画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

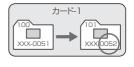
1 ［画像番号］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。

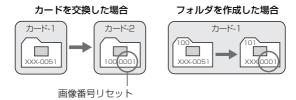
2 画像番号の付け方を選ぶ

- 内容を選び〈SET〉を押します。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

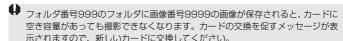
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

フォルダを作成した場合

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_」、動画は「MVI_」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

MENU 著作権情報の設定 応用

　著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に付加されます。

1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**著作権情報**］を選び、〈SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 文字の入力画面が表示されます。
- ［**著作権情報の表示**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報が確認できます。
- ［**著作権情報の消去**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報を消去できます。

3 文字を入力する

- 次ページの『文字の入力方法』を参照し、著作権情報を入力します。
- 半角英数字／記号で最大63文字入力することができます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が完了したら、〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

文字の入力方法

● **入力エリアの切り換え**
〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

● **カーソルの移動**
〈◄►〉を押すとカーソルが移動します。

● **文字の入力**
下側のエリアで〈▲▼〉〈◄►〉を押して文字を選び、〈SET〉を押して文字を入力します。

● **文字の削除**
〈🗑〉ボタンで消去します。

● **入力の終了**
〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

● **入力のキャンセル**
〈INFO.〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして手順2の画面に戻ります。

付属ソフトウェアのEOS Utilityから著作権情報を設定することもできます。

MENU 色空間を設定する 応用

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンでは、sRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［ ］タブの［**色空間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

- ［**sRGB**］または［**Adobe RGB**］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**B**）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（⏱4）表示されます。
- 応用撮影ゾーンで設定できる機能は、『各撮影モードで設定できる機能一覧』（p.276）を参照してください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

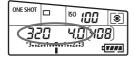
＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈**P**〉と〈□〉（全自動）の違いについて

〈□〉では、失敗を防ぐために、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉では、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなどの機能は自由に設定することができます（p.276）。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
- プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv：シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

1 **モードダイヤルを〈Tv〉にする**

2 **シャッター速度を設定する**

● 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

3 **ピントを合わせる**

● シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 **表示を確認して撮影する**

● 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

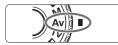
- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈⚙〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av: 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値：F32）

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

1 モードダイアルを〈**Av**〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。

- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示
数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う奥行き（被写界深度）をファインダーで確認できます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーが暗くなります。
- 被写界深度の効果は、ライブビュー映像を見ながら絞り数値を変えて、絞り込みボタンを押すとよくわかります（p.152）。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 自分で露出を決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈 〉を回して設定します。設定できないときは、〈 〉の下にある〈UNLOCK〉ボタンを押してから（ 4）〈 〉を回します。

標準露出指標

露出レベルマーク

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈 〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

4 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

5 撮影する

メニュー［**オートライティングオプティマイザ**］（p.101）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。

[◉] 測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を４種類の中から選ぶことができます。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます。

1 〈[◉]〉ボタンを押す（⏱6）

2 測光モードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

[◉] 評価測光

逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

[○] 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約6.5%の範囲を測光します。

[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約2.8%を測光します。

[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを露出補正といいます。

補正できる範囲は、1/3段ステップ±5段ですが、表示パネルとファインダー内の露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、クイック設定画面（p.44）または次ページのメニュー［**露出補正／AEB設定**］で行うことをおすすめします。

1 モードダイヤルを〈P/Tv/Av〉のいずれかにする

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

2 補正量を設定する

- シャッターボタンを半押ししたあと（4）、〈〉を回して設定します。設定できないときは、〈〉の下にある〈UNLOCK〉ボタンを押してから（4）〈〉を回します。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈〉の位置に戻します。

メニュー［**オートライティングオプティマイザ**］（p.101）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 不用意に〈〉が回って補正量が変わらないよう注意してください。メニュー［ **ロック**］を［**する**］に設定すると安全です。〈〉を回すときは、〈UNLOCK〉ボタンを押してから（4）〈〉を回します。
- ±3段を越える設定をしたときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉表示になります。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。

＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［ ］タブの［露出補正／AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈 〉を回すとAEBレベルが設定できます。
- 〈◄►〉を押すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正値を中心にAEB撮影されます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈 〉とAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルの表示を消します。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボの充電完了で自動解除されます。

- ドライブモードが〈□〉のときは、シャッターボタンを3回押して撮影します。〈□H〉〈□〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈 〉〈 2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

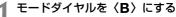
- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

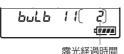
2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（p.119）	AFフレーム選択（p.78）	
	自動選択	任意選択
[◉]*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[◎] [•] [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

B: 長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 **モードダイヤルを〈B〉にする**

2 **絞り数値を設定する**

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回します。

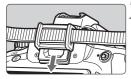
露光経過時間

3 **撮影する**

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

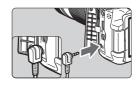
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- ［C.Fn II -1：**長秒時露光のノイズ低減**］を［**1：自動**］または［**2：する**］に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを軽減することができます（p.254）。

- バルブ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ（p.124）の使用をおすすめします。
- リモコン（別売／ p.126）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモコンの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。

アイピースカバーを併用する

ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.23）を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。

1 アイカップを取り外す

● アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

● ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

リモートスイッチを使う

コード長約60cmのリモートスイッチ RS-60E3（別売）に対応しています。カメラのリモコン端子につないで、シャッターボタンと同じように半押し／全押しを行うことができます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

［C.Fn III -5：ミラーアップ撮影］を［1：する］に設定すると、ミラーアップ撮影ができます（p.257）。

1 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

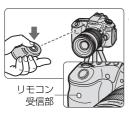
➡ ミラーが上がります。

2 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時+バルブ撮影時間）。タイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ［1：する］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1 枚撮影になります。
- セルフタイマー〈 〉または〈 2〉を使用すると、10秒後、または2秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、リモートスイッチ RS-60E3（別売／p.124）の使用をおすすめします。
- リモコン（別売／p.126）を使ってミラーアップ撮影を行うこともできます。リモコン側のスイッチを「2秒後」に設定して撮影することをおすすめします。

リモコン撮影

リモートコントローラー RC-6（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。「すぐに撮影」と「2秒後撮影」ができます。

リモートコントローラー RC-1 とRC-5も使用することができます。

1 ピントを合わせる

2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

● 〈AF〉で撮影することもできます。

3 〈DRIVE〉ボタンを押す（6）

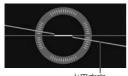
4 セルフタイマーを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈〉を回して、〈〉または〈2〉を選びます。

5 リモコンの送信ボタンを押す

● リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。

➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の影響でカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

水準器を表示する

カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内、表示パネルに表示させることができます。なお、どちらの表示も水平方向の傾き表示のみ行うことができます（前後方向の傾き表示はできません）。

液晶モニターに水準器を表示する

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。

- 水準器が表示されないときは、メニュー［INFO.ボタンで表示する内容］の設定で、水準器が表示されるようにします（p.266）。

水平方向

2 カメラの傾きを確認する

- 水平方向の傾きが1°きざみで表示されます。
- 赤い線が、緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラを大きく傾けた状態では、水準器の誤差が大きくなります。

ライブビュー撮影と動画撮影時にも、同じ操作で水準器を表示させることができます（p.154、176）。

ファインダーの中に水準器を表示する

ファインダー内と表示パネルの水準器表示は、露出レベル表示を利用して行います。なお、水準器は横位置撮影時にのみ表示され、縦位置撮影時には表示されません。

1 カスタム機能C.Fn IVを選ぶ

- メニュー［◘C.Fn IV：操作・その他］を選び、〈SET〉を押します。

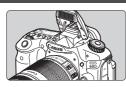
2 C.Fn IV -2［SETボタンの機能］を選ぶ

- 〈◄►〉を押して［2］［SETボタンの機能］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［5］：［SET ファインダー内 -◘-］を選ぶ

- 〈◄►〉を押して［5］：［SET ファインダー内 -◘-］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを2回押してメニュー機能を終了します。

右4° 傾き　　左4° 傾き

4 水準器を表示する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示に、水平方向の傾きが1°ステップ±9°の範囲で表示されます。
- 水準器表示は、シャッターボタン半押しで露出レベル表示に切り換わります。

- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラを上向き／下向きにすると、正しい傾きが表示されません。

6

ストロボ撮影

内蔵ストロボを使った自動ストロボ撮影やマニュアルストロボ撮影のほか、ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

応用撮影ゾーンでは、〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけでストロボ撮影ができます。内蔵ストロボは、手で押し下げて収納します。

かんたん撮影ゾーンでは、暗いときや日中逆光時に、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します（〈⊠〉〈▲〉〈⛷〉除く）。〈CA〉は自動発光と強制発光を選択することができます（p.61）。

動画撮影では、ストロボは使用できません。

⚡ 内蔵ストロボを使った撮影

かんたん撮影ゾーンと応用撮影ゾーンのストロボ撮影では、シャッター速度と絞り数値の関係が下記のようになります。初期設定では、どの撮影モードでも自動露出のE-TTL II 自動調光制御が行われます。

撮影モード	シャッター速度	絞り数値
□ CA	1/250秒～1/60秒自動設定	自動設定
	1/250秒～2秒自動設定	自動設定
P	1/250秒～1/60秒自動設定	自動設定
Tv	手動で1/250秒～30秒設定	自動設定
Av	自動設定	手動で設定
M	手動で1/250秒～30秒設定	手動で設定
B	シャッターボタンを押している間、露光を行います。	手動で設定

［C.Fn I-7：Avモード時のストロボ同調速度］（p.253）で、下記の自動設定範囲が選択できます。撮影モードが〈**Av**〉のときに有効になります。

- 0：自動*
- 1：1/250～1/60秒自動
- 2：1/250秒固定

* 通常は明るさに応じて1/250～30秒が自動設定されます。暗いところでは、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真（自動スローシンクロ撮影）になります。シャッター速度が遅くなったときは、三脚の使用をおすすめします。

内蔵ストロボで撮影できる距離

［約・m］

絞り数値	ISO感度							
	100	200	400	800	1600	3200	6400	H:12800
F3.5	3.5	5.5	7.5	11	15	21	30	42
F4	3	4.5	6.5	9	13	18	26	36
F5.6	2.5	3.5	4.5	6.5	9.5	13	19	26

- 近距離側のストロボ撮影は、1mから行うことができます。
- レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れてください。
- レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、画面の下側が暗くなることがあります。なお、望遠レンズや大口径レンズを使用していて現象が改善されない場合は、EXシリーズスピードライト（別売）の使用をおすすめします。

MENU 赤目緩和機能を使う

ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

〈〉〈〉〈〉〈〉以外の撮影モードで機能します。

- ［］タブの［**赤目緩和機能**］を選び、〈SET〉を押します。［**入**］を選び〈SET〉を押します。
- ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

- 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。

- 赤目緩和効果の度合いは、個人差があります。

ストロボ調光補正 応用

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

1 クイック設定画面を表示する

- 〈Q〉ボタンを押します（p.44）。
- ➡ クイック設定画面の状態になります（⏲10）。

2 ［調光補正］を選ぶ

- 〈▲▼〉と〈◀▶〉で［調光補正 ＊］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 調光補正の設定画面が表示されます。

3 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは、〈ダイヤル〉を右に回します。（プラス補正）
撮影結果が明るいときは、〈ダイヤル〉を左に回します。（マイナス補正）
- ➡ シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに〈調光補正〉が表示されます。

- **撮影が終わったら手順１～３の操作で、補正量をゼロに戻します。**

- メニュー［オートライティングオプティマイザ］（p.101）が、［しない］以外に設定されているときは、露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。
- カメラ側と EX シリーズスピードライト側でともに調光補正を行ったときは、スピードライト側の設定が優先されます。EXシリーズスピードライト側で調光補正が行われていると、カメラ側で調光補正を行っても、カメラで設定した内容は撮影結果に反映されません。

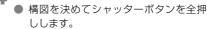
- 設定した補正量は電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 調光補正は、［C.Fn IV -2：SETボタンの機能］で、［4：SET 調光補正］を設定すると、〈SET〉を押すだけで調光補正の設定画面を表示させることができるようになります。
- EXシリーズスピードライト使用時も同じ操作で、カメラからスピードライトの調光補正ができます。

✱ FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

1 〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げる

● シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

3 〈✱〉ボタンを押す（ⓒ16）

● ファインダーの中央に被写体を置いて、〈✱〉ボタンを押します。
➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。
➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ*〉が点灯します。
● 〈✱〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

4 撮影する

● 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
➡ ストロボが発光し、撮影されます。

> 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

内蔵ストロボと外部ストロボに対する設定を、メニュー画面から行うことができます。なお、外部ストロボに関するメニューは、**その機能に対応したEXシリーズスピードライト装着時のみ有効です。**

設定操作の方法は、カメラのメニュー機能と同じです。

［ストロボ制御］を選ぶ

- ［◘˙］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面になります。

［ストロボの発光］について

- 通常は、［**する**］を選びます。
- **［しない］を選ぶと、内蔵／外部ストロボとも発光しません。**ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。

［内蔵ストロボ機能設定］と［外部ストロボ機能設定］

［**内蔵ストロボ機能設定**］と［**外部ストロボ機能設定**］では、次のページに示す機能を設定することができます。なお、［**外部ストロボ機能設定**］で表示される機能は、ストロボの種類によって異なります。

- ［**内蔵ストロボ機能設定**］または［**外部ストロボ機能設定**］を選びます。
- ➡ 機能が表示されます。明るく表示されている機能が選択／設定できます。

［内蔵ストロボ機能設定］と［外部ストロボ機能設定］で設定できる機能

機能	［内蔵ストロボ機能設定］	［外部ストロボ機能設定］	参照頁
発光モード	○		136
シンクロ設定	○		137
FEB*	—	○	—
調光補正	○		132
E-TTL II 調光方式	○		137
ズーム*	—	○	—
ワイヤレス機能	○		139

* ［FEB］（フラッシュエクスポージャーブラケティング）、［ズーム］については、それぞれの機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● **発光モード**

撮影目的に応じて発光モードが選択できます。

- ［E-TTL II］は、ストロボの自動撮影ができる、EXシリーズスピードライトの標準的なモードです。
- ［マニュアル発光］は、ストロボの［発光量］（1/128～1/1）を自分で決めて撮影する、上級者向けのモードです。
- そのほかの発光モードについては、その発光モードに対応した外部ストロボの使用説明書を参照してください。

● **シンクロ設定**

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、撮影終了直前にストロボが発光します。低速シャッターと組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡が自然な感じで写ります。また、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。なお、シャッター速度が1/30秒以上のときは、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

外部ストロボ使用時は、［**ハイスピード**］（⚡_{H}）も選択できます。詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● **調光補正**

132ページの『⚡± ストロボ調光補正』を参照してください。

● **E-TTL II 調光方式**

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。

［**平均調光**］に設定すると、外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要な、上級者向けの設定です。

● **ワイヤレス機能**

139ページの『ワイヤレスストロボ撮影』を参照してください。

● **ストロボ設定の初期化**

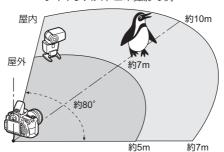
［**内蔵ストロボ機能設定**］または［**外部ストロボ機能設定**］の画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ストロボ設定の初期化画面が表示されます。［**OK**］を選ぶとストロボの設定が初期化されます。

外部ストロボカスタム機能を設定する

1 カスタム機能を表示する

- 外部ストロボ撮影ができる状態で［**外部ストロボカスタム機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

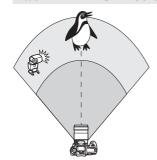
2 カスタム機能を設定する

- 〈◄►〉を押して番号を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのカスタム機能の設定と同じです（p.250）。
- カスタム機能をすべて解除するときは、手順1で［**外部ストロボカスタム機能一括解除**］を選びます。

ワイヤレスストロボ撮影 応用

　このカメラの内蔵ストロボは､ワイヤレススレーブ機能を備えたキヤノン製スピードライトを､ワイヤレス制御で発光させることができる｢マスター｣機能を備えています。スピードライト使用説明書の、ワイヤレスストロボ撮影に関する説明と注意も必ずお読みください。

スレーブの設定と配置

　お手持ちのスピードライト（以下、スレーブ）使用説明書を参照し、スレーブに対して下記の設定を行います。なお、下記設定以外のスレーブ制御は、すべてカメラ側で行います。異なる種類のスレーブが混在していても制御することができます。

①ストロボをスレーブに設定する。
②カメラと同じ通信チャンネルを設定する。
③光量比制御（p.144）**を行うときは、スレーブIDを設定する。**
④下図の範囲内にカメラとスレーブを配置する。
⑤スレーブのワイヤレス受信部をカメラに向ける。

ワイヤレスストロボ撮影の例

スレーブのオートパワーオフ解除について

　スレーブのオートパワーオフ状態を解除するときは、カメラの〈✱〉ボタンを押してください。なお、マニュアル発光のときは、スレーブのテスト発光（PILOT）ボタンを押して解除してください。

外部ストロボ1灯の全自動撮影

外部ストロボ1灯を使った、最も基本的な全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

手順1～3と6～7の操作は、すべてのワイヤレスストロボ撮影に共通していますので、以降の説明では省略しています。

メニュー画面の〈〉〈〉は外部ストロボを、〈〉〈〉は内蔵ストロボを表しています。

1 〈⚡〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げる

- ワイヤレスストロボ撮影のときは、必ず内蔵ストロボを上げてください。

2 [ストロボ制御] を選ぶ

- [] タブの [ストロボ制御] を選び、〈SET〉を押します。

3 [内蔵ストロボ機能設定] を選ぶ

- [内蔵ストロボ機能設定] を選び〈SET〉を押します。

4 [発光モード] を選ぶ

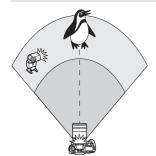
- [発光モード] の [E-TTL II] を選び、〈SET〉を押します。

5 ［ワイヤレス機能］を選ぶ

- ［**ワイヤレス機能**］の［ ］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**ワイヤレス機能**］の下に［**チャンネル**］などが表示されます。

6 ［チャンネル］を設定する

- スレーブと同じ通信チャンネル（1〜4chのいずれか）を設定します。

7 ［発光グループ］を設定する

- ［**発光グループ**］の［**全部**］を選び、〈SET〉を押します。

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。
- ワイヤレスストロボ撮影を終了するときは、［**ワイヤレス機能**］を［**切**］に設定します。

- ［**E-TTL II 調光方式**］の設定は［**評価調光**］をおすすめします。
- 内蔵ストロボを使用しない設定にしていても、スレーブを制御するための発光が行われます。なお、撮影条件によっては、スレーブを制御するための発光が写真に写り込むことがあります。
- スレーブのテスト発光機能はありません。

外部ストロボ1灯と内蔵ストロボの全自動撮影

外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使った全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

外部ストロボと内蔵ストロボの光量比（発光量の割合）を変えて、被写体にできる影の出方を調整することができます。

1 ［ワイヤレス機能］を選ぶ

- 141 ページの手順 5 で［ワイヤレス機能］の［ : ］を選び、〈SET〉を押します。

内蔵ストロボ機能設定
シンクロ設定　先幕シンクロ
E-TTL II調光方式　評価調光
ワイヤレス機能
チャンネル　1 ch
調光補正　-3..2..1..0..1..2.+3
2:1 · 1:1 · 1:2
INFO. ストロボ設定初期化

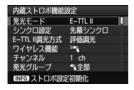
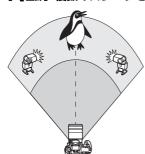
2 光量比を設定して撮影する

- ［ : ］を選び、8：1～1：1の範囲で光量比を設定します。1：1より右側は、設定できません。
- 内蔵ストロボの発光量が足りないときは、ISO感度を上げてください（p.88）。

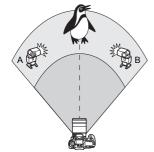
光量比の8：1～1：1は、段数換算で3：1～1：1（1/2段ステップ）に相当します。

複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

複数のスレーブを1つのストロボとみなして発光させたり、グループ分けして光量比を変えて撮影することができます。

基本設定は下記のとおりで、[**発光グループ**]の設定を変えることにより、さまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

下記の基本設定を行う

発光モード　　　　　：E-TTL II
E-TTL II 調光方式　：評価調光
ワイヤレス機能　　　：
チャンネル　　　　　：（スレーブと同じ）

[全部] 複数のスレーブを1つのストロボとして発光させる

大きな発光量が必要なときに設定します。すべてのストロボが同じ光量で発光し、標準露出になるよう制御が行われます。

スレーブIDがA, B, Cのどれに設定されていても、同グループのストロボとして発光します。

[発光グループ]を[全部]に設定して撮影する

[(A:B)] 複数のスレーブをグループ分けして発光させる

スレーブをAとBの 2グループに分け、光量比を変えてライティングを調整することができます。

お手持ちのスピードライト使用説明書を参照し、片方のスレーブをスレーブID：A（Aグループ）、もう片方のスレーブをスレーブID：B（Bグループ）に設定して図のように配置します。

1 [発光グループ] を [(A:B)] に設定する

2 光量比を設定して撮影する

- [**A:B光量比**] を選び、光量比を設定します。

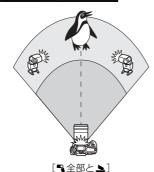
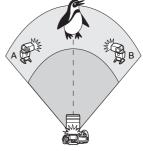
[**発光グループ**] を [(A:B)] に設定すると、Cグループに設定したストロボは発光しません。

光量比の8：1～1：1～1：8は、段数換算で3：1～1：1～1：3（1/2段ステップ）に相当します。

内蔵ストロボと複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

143、144ページのワイヤレスストロボ撮影に、内蔵ストロボを加えることができます。

基本設定は下記のとおりで、［**発光グループ**］の設定を変えることにより、内蔵ストロボを加えたさまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

1 下記の基本設定を行う

発光モード　：E-TTL II
E-TTL II 調光方式　：評価調光
ワイヤレス機能　：[+]
チャンネル　：（スレーブと同じ）

2 ［発光グループ］を選ぶ

- 発光グループを選び、光量比や調光補正などの必要な設定を行って撮影します。

［ 全部と ］

［ (A：B) ］

応用ワイヤレスストロボ撮影

ストロボ調光補正

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに設定することができます。なお、設定できる調光補正の項目（下記参照）は、［**ワイヤレス機能**］と［**発光グループ**］の設定内容によって変わります。

［調光補正］

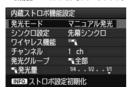
- 内蔵、外部の全ストロボに対して、設定した調光補正量が一律に設定されます。

［ 調光補正］

- 内蔵ストロボに対して、調光補正を行うことができます。

［ 調光補正］

- すべての外部ストロボに対して、設定した調光補正量が一律に設定されます。

［A,B調光補正］

- A, B両グループに対して、設定した調光補正量が一律に設定されます。

FEロック

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに、〈✱〉ボタンを押すとFEロックを行うことができます。

発光量を手動設定したワイヤレスストロボ撮影

［**発光モード**］が［**マニュアル発光**］のときに設定することができます。なお、設定できる発光量の項目（［**発光量**］、［**Aグループ発光量**］など）は、［**ワイヤレス機能**］の設定内容（下記参照）によって変わります。

［ワイヤレス機能：］

- ［**発光グループ：全部**］を選ぶと、すべての外部ストロボに対して設定したマニュアル発光量が一律に設定されます。
- ［**発光グループ：（A：B）**］を選ぶと、スレーブをAとBの2グループに分けて、各グループごとに発光量を設定することができます。

［ワイヤレス機能：＋］

- ［**発光グループ：全部と**］を選ぶと、外部ストロボと内蔵ストロボに対し、個別に発光量を設定することができます。
- ［**発光グループ：（A：B）**］を選ぶと、スレーブをAとBの2グループに分けて、各グループごとに発光量を設定することができます。また、内蔵ストロボの発光量も設定することができます。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXスピードライト（別売）をこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

操作方法については、**EXスピードライトの使用説明書を参照してください**。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

- ストロボ機能設定（p.135）に対応していないEXスピードライト使用時は、［**外部ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II 調光方式**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）
- ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしている場合は、常時フル発光します。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を持つスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なるため、1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行う場合は、［**静音撮影**］を［**しない**］設定にしてください（p.159）。［**モード1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子は装備していません。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

7

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

〈◘〉液晶モニターを見ながら撮影する

1 ライブビュー映像を表示する

● 〈◘〉ボタンを押します。
➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
● 映像の視野率は、約100%です。

2 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモード（p.160～167）でピント合わせが行われます。

3 撮影する

● シャッターボタンを全押しします。
➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
● 〈◘〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈▣〉と赤い〈▣〉表示について

● ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈▣〉マークが表示されます。このマークが表示された状態で撮影すると、静止画の画質が低下することがありますので、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
● 白い〈▣〉マークが表示された状態からカメラ内部の温度がさらに上昇すると、赤い〈▣〉マークが点滅表示されます。このマークは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
● 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈▣〉マークと〈▣〉マークが表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

ライブビュー撮影ができないときは

メニュー［ライブビュー撮影］を［する］に設定します。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　［約・枚］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	350	320
低温（0℃）	310	280

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6でライブビュー撮影できる時間は、合計で常温（+23℃）：約2時間20分です。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、168、169ページにまとめて記載しています。**

- ピント合わせは、〈AF-ON〉ボタンでも行うことができます。
- ストロボ撮影時はシャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。
- ライブビュー映像を表示した状態から、再生操作〈▶〉を行うことができます。
- カメラを操作しない状態が続くと、メニュー［オートパワーオフ］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.50）。なお、設定が［切］のときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- 付属のAVケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.209、212）。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

AFモード
・ AFLive :ライブモード
・ AF☺ :顔優先ライブモード
・ AFQuick :クイックモード

ドライブモード
ホワイトバランス
オートライティング オプティマイザ
記録画質
ストロボ調光補正
AEロック
ストロボ充電完了
シャッター速度
ピクチャースタイル
絞り数値
露出レベル表示／AEBレベル

AFフレーム（クイックモード）
拡大表示枠
ヒストグラム
Eye-Fiカード通信状態
FEB撮影
AEB撮影
露出シミュレーション
電池チェック
高輝度側・階調優先
ISO感度
撮影可能枚数

● ヒストグラムは、［**露出Simulation：する**］（p.158）のときに表示させることができます。

● 〈INFO.〉ボタンを押して水準器を表示させることができます（p.266）。なお、AFモードが［**☺ライブモード**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。

● 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、ライブビュー映像を実際の撮影結果に近い明るさで表示しています。

● 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。

● ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。静止画撮影時にライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に表示されます。

静止画のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 雰囲気を選んで撮影する
- 明かりや状況にあわせて撮影する
- 露出（露出Simulation ［**する**］設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

撮影機能の設定

AF／DRIVE／ISO設定

ライブビュー撮影状態で〈AF〉／〈DRIVE〉／〈ISO〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈◄►〉を押して撮影機能の設定を行うことができます。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、設定変更ができる項目が表示されます。かんたん撮影ゾーンでは、AFモードと67ページで説明した項目が変更できます。応用撮影ゾーンでは、AFモードとドライブモード、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、記録画質、ストロボ調光補正の設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ 設定を行うことができる機能が青色で表示されます。

● 〈AFQuick〉のときは、AFフレームも表示されます。

2 機能を選んで設定する

● 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の設定内容が、画面下側に表示されます。

● 〈◎〉または〈⌂〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます（AFフレーム除く）。

● 測光モードはライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
● 応用撮影ゾーンでは、絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
● 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。
● リモコン（別売／p.126）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

📷⋮ メニュー機能の設定

ライブビュー撮影特有の機能設定について説明します。メニューの［📷⋮］タブで表示される各項目の内容は、下記のとおりです。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影でのみ有効です。ファインダー撮影時は無効になります。

● **ライブビュー撮影**

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● **AFモード**

［**ライブモード**］（p.160）、［**😊ライブモード**］（p.161）、［**クイックモード**］（p.165）が選択できます。

● **グリッド**

［**グリッド1**＃］または［**グリッド2**＃＃］で格子線を表示することができます。

● **アスペクト比** 応用

画像のアスペクト比（横縦比率）を［**3：2**］［**4：3**］［**16：9**］［**1：1**］から選択することができます。［**4：3**］［**16：9**］［**1：1**］では、ライブビュー映像に撮影範囲が線で表示されます。

JPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。

RAW画像は、常に［**3：2**］のアスペクト比で保存されます。RAW画像には、設定したアスペクト比情報が付加されますので、付属ソフトウェアで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成します。なお、［**4：3**］［**16：9**］［**1：1**］では、再生時にアスペクト比を示した線が表示されますが、画像には線は引かれていません。

記録画質	アスペクト比と画素数			
	3：2	4：3	16：9	1：1
L RAW	5184×3456 （1800万）	4608×3456 （1600万）	5184×2912* （1510万）	3456×3456 （1190万）
M	3456×2304 （800万）	3072×2304 （700万）	3456×1944 （670万）	2304×2304 （530万）
M RAW	3888×2592 （1010万）	3456×2592 （900万）	3888×2188* （850万）	2592×2592 （670万）
S1 S RAW	2592×1728 （450万）	2304×1728 （400万）	2592×1456* （380万）	1728×1728 （300万）
S2	1920×1280 （250万）	1696×1280* （220万）	1920×1080 （210万）	1280×1280 （160万）
S3	720×480 （35万）	640×480 （31万）	720×400* （29万）	480×480 （23万）

- 「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、ごくわずかですが実際に撮影される範囲よりも 広い範囲が表示されます。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- アスペクト比1：1で撮影した画像を、EOS 60D以外のカメラでダイレクトプリントすると、正常に印刷されないことがあります。

● 露出Simulation 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示します。［**する**］［**しない**］の内容は、それぞれ次のようになっています。

・する（Exp.SIM）

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

・しない（DISP）

ライブビュー映像が見やすいよう、標準的な明るさで表示されます。

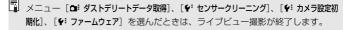
● **静音撮影** 応用

・**モード1**

通常撮影よりも作動音が静かになります。連続撮影を行うこともできます。なお、高速連続撮影は、約5コマ/秒になります。

・**モード2**

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻すとカメラが作動しますので、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影にしていても1枚撮影になります。

・**しない**

TS-Eレンズを使用して**上下方向のシフト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ずこの設定にしてください。[**モード1**]、[**モード2**] に設定すると、適正露出にならなかったり、露出ムラになったりします。

シャッターボタンを全押しすると、シャッターが2回切れたような音がして撮影されます（撮影枚数は1枚です）。

● [**モード1**]、[**モード2**] に設定していても、ストロボ撮影を行うと、[**しない**] と同じ動きになります。
● 汎用ストロボを使用する場合は、[**しない**] に設定してください。（[**モード1**]、[**モード2**] に設定されていると、ストロボが発光しません。）

● **測光タイマー** 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

メニュー [**ダストデリートデータ取得**]、[**センサークリーニング**]、[**カメラ設定初期化**]、[**ファームウェア**] を選んだときは、ライブビュー撮影が終了します。

AFでピントを合わせる

AFモードを選ぶ

AFモードには、[**ライブモード**]、[**ライブモード**](顔優先/p.161)、[**クイックモード**](p.165)があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して、手動ピント合わせを行ってください(p.167)。

AFモードを選ぶ

- [ ]タブの[**AFモード**]で選びます。
- ライブビュー映像表示中に〈**AF**〉ボタンを押して、表示される設定画面でAFモードを選ぶこともできます。

ライブモード: AFLive

撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックモード」よりもピント合わせに時間がかかります。**また、「クイックモード」よりもピントが合いにくいことがあります。

AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを動かす

- ピントを合わせたい場所に、〈 〉で動かします(画面の一番端までは動きません)。
- 〈 〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。

3 ピントを合わせる

● AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ AFが行われ、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.152）。

：（顔優先）ライブモード：AF：

ライブモードと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

● 〈 〉ボタンを押します。

➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

● 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈 〉が顔の部分に表示されます。

● 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈 〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈[ ]〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AF フレーム〈□〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.152）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈[ ]〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈🗑〉ボタンを押すと、ライブモード（p.160）に切り換わり、〈✣〉で AF フレームを移動することができます。もう一度〈🗑〉ボタンを押すと、☺（顔優先）ライブモードに戻ります。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈[ ]〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央のAFフレーム〈□〉でピント合わせが行われます。

ライブモードと（顔優先）ライブモードに関するおことわり

AFの動作について

- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- ライブモードで〈⊕〉ボタンを押すと、AF フレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブモードの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- ライブモードのときは、〈⊕〉ボタンを押しても拡大表示されません。

- ライブモード、（顔優先）ライブモードで、画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- AF補助光は投光されません。

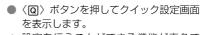
ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯などの照明下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

クイックモード：AFQuick

ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.76）でピント合わせを行います。

ピントを素早く合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

AFフレーム

拡大表示枠

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈◘〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面内の小さい枠が AF フレームで、大きい枠が拡大表示枠です。

2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈Q〉ボタンを押してクイック設定画面を表示します。
- ➡ 設定を行うことができる機能が青色で表示されます。
- 〈▲▼〉を押して、AF フレームが選択された状態にします。
- 〈◎〉または〈☼〉を回してAFフレームを選びます。

3 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピント合わせに使用した AF フレームが緑色で表示されます。

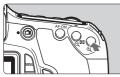
4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.152）。

AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。

手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

● レンズのフォーカスリングを回して、大まかにピントを合わせておきます。

拡大表示枠

2 拡大表示枠を移動する

● ピントを合わせたい場所に、〈◈〉で拡大表示枠を移動します。
● 〈🗑〉ボタンを押すと、画面中央に戻ります。

3 映像を拡大する

● 〈⊕〉ボタンを押します。
➡ 枠内が拡大表示されます。
● 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→5倍 → 10倍 → 通常表示 ─┐

AEロック
拡大表示位置
拡大率

4 手動でピントを合わせる

● 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
● ピント合わせが終わったら、〈⊕〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.152)。

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 太陽など、極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所でメニュー［**Ұ: 液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

撮影結果について

- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影画像の画質が低下する恐れがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- 画質低下を防ぐため、長秒時露光を行うときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。
- 高温・高ISO感度の条件でライブビュー撮影を行うと、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（縞、輝点など）が目立つことがあります。
- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
- メニュー［**オートライティングオプティマイザ**］（p.101）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正を行っても明るく撮影されることがあります。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.251）。

レンズとストロボについて

- 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。
- 内蔵／外部ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボのモデリング発光もできません。

8

動画を撮影する

モードダイヤルを〈'𝐑〉に設定すると、動画撮影ができるようになります。記録形式はMOV形式です。

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください。

動画撮影時に書き込みが遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。

なお、カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

🎥 動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします（p.209、212）。

自動露出で撮影する

1 モードダイヤルを〈🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

2 ピントを合わせる

● 動画撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせておきます（p.160〜167）。

● シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。

3 動画を撮影する

● 〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

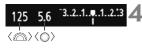
動画撮影中

マイク

- 動画撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **動画撮影全般に関する注意事項は、187、188ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて168、169ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。**

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈🌡〉と赤い〈**🌡**〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉マークが表示されます。このマークが表示された状態で動画撮影をしても、動画の画質は低下しません。ただし、静止画を撮影すると、静止画の画質が低下することがありますので、カメラ内部の温度が下がるまで、静止画撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い〈🌡〉マークが表示された状態からカメラ内部の温度がさらに上昇すると、赤い〈**🌡**〉マークが点滅表示されます。このマークは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🌡〉マークと〈**🌡**〉マークが表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

- ピント合わせは、〈AF-ON〉ボタンでも行うことができます。
- 〈✱〉ボタンを押すとAEロックを行うことができます（p.122）。撮影中にAEロックを解除するときは、〈⊞〉ボタンを押します。
- ISO感度とシャッター速度、絞り数値は自動設定されます。
- 〈◎〉を回すと、露出補正を行うことができます。
- シャッターボタン半押しで画面左下に表示されるシャッター速度と絞り数値（p.176）は、静止画撮影用の露出値です。

マニュアル露出で撮影する

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

1 モードダイヤルを〈'🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

2 ［動画撮影モード］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押して、［📷'🎥］タブの［**動画撮影モード**］を選び、〈SET〉を押します。

3 ［マニュアル露出］を選ぶ

- ［**マニュアル露出**］を選び〈SET〉を押します。
- メニュー表示を終了させます。

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

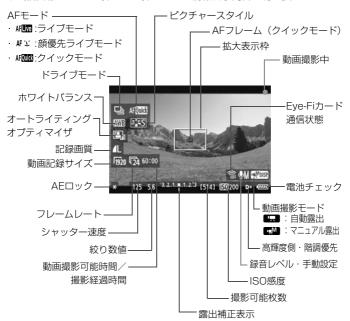
- シャッター速度は、〈⚙〉を回して設定します。設定できるシャッター速度は、フレームレート〈**〉により異なります。
  - ・60、50 ：1/4000～1/60秒
  - ・30、25、24：1/4000～1/30秒
- 絞り数値は、〈◎〉を回して設定します。設定できないときは、〈UNLOCK〉ボタンを押してから（📖16）〈◎〉を回します。

5 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに ISO 感度の設定画面が表示されます。
- 〈◄►〉を押してISO感度を設定します。

・自動設定時：ISO100～6400
・手動設定時：ISO100～6400

6 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出で撮影する』の手順2、3と同じです（p.172）。

- AEロック、露出補正はできません。
- 動画撮影中に、シャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- ズーム操作により開放絞り数値が変化するレンズをお使いのときは、動画撮影中のズーム操作はおすすめできません。露出変化が記録されることがあります。
- 蛍光灯などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。

- ISO感度自動設定にすると、明るさが変化しても、ある程度適正露出で動画撮影を行うことができます。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 自動露出で撮影した動画を「撮影情報表示」（p.192）で再生したときは、シャッター速度、絞り数値は表示されません。ただし、画像情報（Exif情報）には、撮影開始時点の設定値が記録されます。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

● 〈INFO.〉ボタンを押して水準器を表示させることができます（p.266）。なお、動画撮影を開始すると水準器は消えます。再度水準器を表示させるときは、動画撮影を終了して〈INFO.〉ボタンを押します。AFモードが［**ライブモード**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.209）したときは、水準器は表示されません。
● カードが入っていないときは、「動画撮影可能時間」が赤く表示されます。
● 「動画撮影可能時間」は撮影が始まると、撮影の経過時間に変わります。

- 動画は、1カット1ファイルとして記録されます。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.172）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.16）に、ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、ステレオ録音することができます。
- メニューの［］と［］、［］タブで、動画撮影に関する設定を行うことができます（p.182）。
- リモートコントローラー RC-6（別売／p.126）を使用すると、ドライブモードが〈〉と〈〉のときに、動画撮影の開始／停止を行うことができます。撮影タイミングスイッチを〈**2**〉（2秒後撮影）の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、静止画撮影になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6で使用できる時間は、合計で常温（+23℃）：約2時間、低温（0℃）：約1時間40分です。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。動画撮影時にライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に表示されます。

動画のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先

静止画を撮影する

シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中でも静止画を撮影することができます。

〈'🎥〉モードの静止画撮影について

- 動画記録サイズが［1920×1080］と［1280×720］のときは、16：9のアスペクト比で撮影されます。［640×480］のときは、4：3のアスペクト比で撮影されます。
- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約1秒間記録されます。
- 静止画がカードに記録され、ライブビュー映像が表示されると自動的に動画撮影が再開します。
- カードには、動画ファイルと静止画ファイルが別々に記録されます。
- 静止画撮影特有の機能は下記のようになります。そのほかの機能は動画撮影と同じです。

機能	設定内容
記録画質	メニュー［📷 記録画質］設定のとおり
露出値	シャッター速度、絞り数値自動設定（マニュアル露出時は手動設定） シャッターボタン半押しで表示
AEB	解除
ドライブモード	すべて可能*
ストロボ	発光禁止

* セルフタイマーは、動画撮影開始前に有効です。動画撮影中は、1枚撮影に切り換わります。

動画撮影中に静止画を連続撮影することができますが、連続撮影中は画面が表示されません。なお、静止画の記録画質や、連続撮影する枚数、カードの性能などにより、動画撮影が自動的に停止することがあります。

撮影機能の設定

AF／DRIVE／ISO設定

〈AF〉／〈DRIVE〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈◄►〉を押して撮影機能の設定を行うことができます。

マニュアル露出（p.174）のときは、〈ISO〉ボタンを押して、〈◄►〉を押すとISO感度を設定することができます。

[Q] クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈[Q]〉ボタンを押すと、AFモード／**ドライブモード（静止画）**／**ホワイトバランス**／**ピクチャースタイル**／**オートライティングオプティマイザ**／**記録画質（静止画）**／動画記録サイズの設定を行うことができます（太文字の項目は、すべての撮影モードに反映されます）。

1 〈[Q]〉ボタンを押す

➡ 設定を行うことができる機能が青色で表示されます。

● 〈AFQuick〉のときは、AFフレームも表示されます。

2 機能を選んで設定する

● 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の設定内容が、画面下側に表示されます。

● 〈◎〉または〈⚙〉を回して設定を変更します。〈◄►〉を押して、設定を変更することもできます（AFフレームを除く）。

MENU 動画記録サイズの設定

［ ］タブの［**動画記録サイズ**］で、動画の画像サイズ［****x****］と、フレームレート［ ］（1秒間に何コマ記録するか）を選ぶことができます。なお、（フレームレート）は、［ **ビデオ出力方式**］の設定により、自動的に切り換わります。

● **画像サイズ**

［1920×1080］　：Full HD（フルハイビジョン）画質で記録します。
［1280×720］　：HD（ハイビジョン）画質で記録します。
［640×480］　：標準画質で記録します。画面の横縦比率は4:3です。
［クロップ 640×480］：標準画質で記録します。画面の横縦比率は4:3です。通常撮影時の約7倍の望遠撮影ができます。この撮影モードを「動画クロップ」といいます。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

［60］［30］：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。
［50］［25］：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。
［24］　：主に、映画関連で使用します。

動画クロップに関するおことわり

- 手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影してください。
- ピント合わせ時に、拡大表示することはできません。
- AFモードが［**クイックモード**］のときは、自動的に［**ライブモード**］に切り換わります。また、［**ライブモード**］時のAFフレームは、他の記録サイズ時より大きく表示されます。
- 他の記録サイズ時より、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っていると、ピントが合いにくいことがあります。
- 静止画撮影はできません。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

ファイルシステムの都合により、1カットのファイルサイズが4GBに達した時点で動画撮影が自動的に終了します。[1920×1080] と [1280×720] は約12分、[640×480] と [クロップ 640×480] は約24分です。〈◘〉ボタンを押すと動画撮影を再開します（新規ファイルとして記録されます）。

動画記録サイズ		総記録時間（約）		ファイルサイズ
		8GBカード	16GBカード	
[1920×1080]	30	22分	44分	330MB/分
	25			
	24			
[1280×720]	60	22分	44分	330MB/分
	50			
[640×480] [クロップ 640×480]	60	46分	1時間32分	165MB/分
	50			

- カメラ内部の温度上昇により、上記の表で示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.173）。
- 1カットで撮影できる時間は、最長で29分59秒です。なお、被写体やカメラ内部の温度上昇などにより、29分59秒よりも早く動画撮影が終了することがあります。

付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserを使用すると、動画から静止画を抜き出すことができます。静止画の画質は [1920×1080]：約200万画素、[1280×720]：約100万画素、[640×480]：約30万画素です。

MENU メニュー機能の設定

　メニューの［　］と［　］、［　］タブで表示される各項目の内容は、下記のとおりです。なお、［　］と［　］、［　］タブで設定した内容は、モードダイヤルの〈　〉でのみ有効で、〈　〉以外の撮影モードには反映されません。

［　］メニュー

● 動画撮影モード

　通常は、［**自動露出**］を選択します。

　［**マニュアル露出**］を設定すると、任意にISO感度、シャッター速度、絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます（p.174）。

● AFモード

　160～166ページで説明しているAFモードと同じです。［**ライブモード**］、［**ライブモード**］、［**クイックモード**］が選択できます。なお、動いているものにピントを合わせ続けることはできません。

● 動画記録中のシャッターボタンAF

　［**する**］に設定すると、動画撮影中にAFができます。なお、連続的なピント合わせはできません。また、このAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあります。

　AFモードが［**クイックモード**］のときは、ライブモードでAFが行われます。

● **'🎥のAFと測光に関するボタン**

シャッターボタン半押しと、AFスタートボタン、AEロックボタンに割り当てられている機能を変更することができます。組み合わせは10種類で、「測光・AF開始、AEロック、測光開始、AF停止、無効」のいずれかが割り当てられています。

● **'🎥ISO感度設定ステップ**

ISO感度を手動設定するときのステップを、1/3段ステップと1段ステップから選択できます。

● **'🎥高輝度側・階調優先**

［**する**］を設定すると、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。なお、ISO感度の設定範囲はISO200～6400になります。また、オートライティングオプティマイザは［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。

設定した「AFモード」は、ライブビュー撮影にも反映されます（［**クロップ 640×480**］を除く）。

[撮影メニュー] メニュー

● 録音

レベルメーター

通常は内蔵マイクでモノラル録音されます。外部マイク入力端子（p.16）に、ステレオミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。

［**録音**］の項目

［**オート**］　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

［**マニュアル**］：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。
［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◎〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（－12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能（約3秒間）を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

［**しない**］　：録音は行われません。

［ウィンドカット］

［入］に設定すると、風の影響を受ける屋外で撮影する際、風の「ボコボコ」という音の影響を低減することができます。なお、［入］に設定すると、低い音の一部も低減されてしまいます。風の影響を受けない場所では［切］に設定すると、［入］のときよりも自然な音で録音されます。

- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- L/Rともに、サンプリング周波数48KHz／16bitで記録されます。

● **静音撮影**

静止画撮影用の機能です（p.159）。

● **測光タイマー**

〈✱〉ボタンで行う露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● **グリッド**

［グリッド1 ⌗］または［グリッド2 ▦］で格子線を表示することができます。

[Ô🎥⁝] メニュー

● **露出補正**

±5段の露出補正量が設定できますが、動画は±3段までの補正となります。なお、静止画は±5段まで補正できます。

● **オートライティングオプティマイザ**

101ページで説明したオートライティングオプティマイザが設定できます。動画撮影のほか、動画撮影中の静止画撮影にも有効です。

なお、[Ô🎥˙] タブの [**🎥高輝度側・階調優先**] を [**する**] に設定すると、オートライティングオプティマイザが [**しない**] に自動設定され、設定変更ができなくなります。

● **ピクチャースタイル**

90〜95ページで説明したピクチャースタイルが設定できます。動画撮影のほか、動画撮影中の静止画撮影にも有効です。

● **ホワイトバランス**

96〜98ページで説明したホワイトバランスが設定できます。動画撮影のほか、動画撮影中の静止画撮影にも有効です。

● **MWB画像選択**

97ページで説明したマニュアルホワイトバランス用の画像選択を行います。

動画撮影に関するおことわり

記録と画質

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉の位置にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 動画撮影中にAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあるため、おすすめできません。なお、AFモードを［**クイックモード**］に設定していても、動画撮影中はライブモードに切り換わります。
- カードの残り容量がわずかで、動画撮影ができないときは、動画記録サイズと動画撮影可能時間（p.176）が赤く表示されます。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードに書き込みできていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。

  インジケーター

  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。

  なお、動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画撮影が停止することがあります。静止画の記録画質を低くすると改善される場合があります。

動画撮影に関するおことわり

再生とテレビ接続

- ［**自動露出**］で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、［**マニュアル露出**］で撮影してください。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.209）して［**1920×1080**］、［**1280×720**］の動画撮影を行うと、撮影中テレビに表示される映像のサイズが小さくなります。ただし、設定どおりの動画記録サイズで正常に記録されます。
- カメラとテレビを接続（p.209、212）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

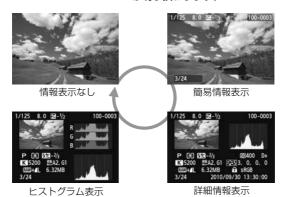
画像の再生

撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 画像を再生する

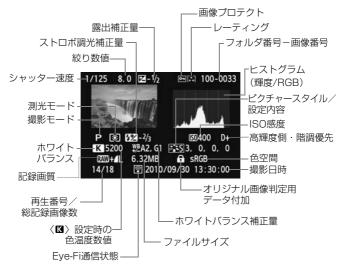
1枚表示

1 画像を再生する

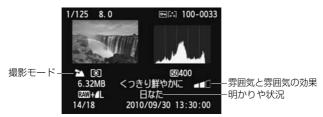
- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし　簡易情報表示

ヒストグラム表示　詳細情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

INFO. 撮影情報の内容

応用撮影ゾーンで撮影した画像の例

* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* 動画撮影時に撮影した静止画のときは、〈 〉が表示されます。
* カメラ内RAW現像とクリエイティブフィルターで処理した画像のときは、〈RAW+〉の表示が〈 〉に変わります。

かんたん撮影ゾーンで撮影した画像の例

* かんたん撮影ゾーンで撮影した画像は、撮影モードによって表示される内容が異なることがあります。

動画撮影モードで撮影した動画の例

● **ハイライト警告表示について**

メニュー［**ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● AFフレーム表示について

メニュー［▶ **AFフレーム表示**］を［**する**］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［▶ **ヒストグラム**］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。

1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊞·Q〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈⊞·Q〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、9枚→4枚→1枚表示になります。

 ➡ ➡

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して青色の枠を移動させ、画像を選びます。〈▲▼〉〈◀▶〉を押して選ぶこともできます。
- 〈⚙〉を回すと1画面分の画像を送ります。
- 〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに、〈◎〉を回すと画像を飛ばして表示することができます。

での画像送り
10枚飛びに画像表示

1 ジャンプ方法を選ぶ

- メニュー［▶ ◎での画像送り］でジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。

  : 1枚ずつ画像表示
  : 10枚飛びに画像表示
  : 100枚飛びに画像表示
  : 撮影日を切り換えて画像を表示
  : フォルダを切り換えて画像を表示
  : 動画だけを表示
  : 静止画だけを表示
  : 指定したレーティングの画像を表示（p.198）
  〈◎〉を回して選びます。

ジャンプ方法
再生位置

2 画像送りをする

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈◎〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。

- ［撮影日］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。〈◎〉を回すと撮影日が表示されます。
- ［フォルダ］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［動画］と［静止画］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- ［レーティング］で対象となる画像がないときは、〈◎〉での画像送りは行われません。

🔍+／🔍− 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍〜10倍に拡大して表示することができます。

1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈🔍+〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈🔍+〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈▦·🔍−〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。

拡大表示位置

2 表示位置を移動する

- 〈✣〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 〈◎〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。
- 動画は拡大表示できません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。

1 ［画像回転］を選ぶ

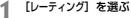
● ［▶˙］タブの［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

● 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
● インデックス表示にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

● 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
● ほかに回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

● 〈MENU〉ボタンを押すと、終了してメニューに戻ります。

● メニュー［¥˙ **縦位置画像回転表示**］を［**する**📷💻］（p.218）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
● 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、メニュー［¥˙ **縦位置画像回転表示**］を［**する**📷💻］に設定します。
● 動画は回転できません。

MENU お気に入り設定をする

メニュー［▶: レーティング］を使用すると、画像や動画に5種類のお気に入りマーク（[★]/[★★]/[★★★]/[★★★★]/[★★★★★]）を付加することができます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。

1 ［レーティング］を選ぶ

- メニュー［▶: レーティング］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してお気に入り情報を付ける画像を選びます。
- 〈⊞・Q〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈⊕〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

3 お気に入り情報をつける

- 〈▲▼〉を押して、お気に入りマークを選びます。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのお気に入りマークの横にある数値がカウントされます。
- ほかにお気に入りを設定する画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、終了してメニューに戻ります。

レーティングの数は3桁（999枚）までしか表示できません。レーティングの数が1000以上になると、［###］表示になります。

お気に入り情報の利用方法

- メニュー［での画像送り］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示させることができます。
- メニュー［スライドショー］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生させることができます。
- 付属ソフトウェアで特定のお気に入りマークを付けた画像だけを選択することができます。
- Windows VistaとWindows 7では、ファイルの詳細表示や標準装備された画像表示機能で再生したときに、「評価」という項目でお気に入りマークを確認することができます。

[Q] 再生時のクイック設定

再生時に〈[Q]〉ボタンを押すと、再生しながら［**▶ 画像プロテクト**／▶ 画像回転／**▶ レーティング**／▶ クリエイティブフィルター／▶ リサイズ（JPEG画像のみ）／**▶ ハイライト警告表示**／**▶ AFフレーム表示**／**▶ ◎での画像送り**］の設定を行うことができます。なお、動画のときは、太字の項目のみ設定できます。

1 〈[Q]〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈[Q]〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定の項目が表示されます。

2 項目を選んで設定する

- 〈▲▼〉を押して、項目を選びます。
- ➡ 選んだ項目の名称と設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈◀▶〉を押して設定します。
- クリエイティブフィルターとリサイズは、さらに〈(SET)〉を押して、内容の設定を行います。詳しくは、クリエイティブフィルター（p.220）とリサイズ（p.222）の説明ページを参照してください。キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈[Q]〉ボタンを押すと、クイック設定の項目が消えて設定が終了します。

画像回転を行うときは、メニュー［¥ **縦位置画像回転表示**］を［**する**］に設定してください。それ以外の設定では画像は回転しません。

- RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、RAWの画像が表示されます。
- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1画面表示に切り換わり、クイック設定画面が表示されます。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- EOS 60D以外のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、おもに次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する (p.209、212)

付属のAVケーブル、または別売のHDMIケーブルHTC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

Full HD（フルハイビジョン：1920×1080）、またはHD（ハイビジョン：1280×720）画質で撮影した動画は、HDMIケーブルで、ハイビジョン対応のテレビに接続すると、より高画質な映像を楽しむことができます。

- 動画が入ったカードは、MOV形式の動画ファイル再生に対応した機器以外では、再生できません。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMIケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する （p.204～208）

カメラの液晶モニターで動画を再生することができ、シーンの前後部分をカット（簡易編集）することもできます。また、カードに記録されている静止画と動画をスライドショーで自動再生することもできます。

パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する

（→ZoomBrowser EX/ImageBrowser使用説明書PDF参照）

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserで再生・編集することができます。

また、動画から1フレームを取り出して、静止画として保存することもできます。

- 撮影した動画をパソコンで滑らかに再生するには、高性能なパソコンが必要です。動作環境については、ZoomBrowser EX/ImageBrowserの使用説明書（PDF）を参照してください。
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。

4 動画を再生する

- [▶]（再生）を選び〈SET〉を押します。

➡ 動画再生が始まります。

- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止されます。
- 〈〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

項目	再生内容
終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈◀▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
編集	編集画面を表示します（p.206）。
	再生位置
mm’ ss”	再生時間
音量	〈〉を回すと、内蔵スピーカー（p.204）の音量を調整することができます。

- フル充電のバッテリーパック LP-E6で連続再生できる時間は、常温（+23℃）：約4時間です。
- 1枚表示のときに〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影情報表示を切り換えることができます（p.266）。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止画が表示されます。
- カメラをテレビに接続して（p.209、212）動画を再生するときは、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈〉を回しても音量は変わりません）。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後を約1秒単位で削除することができます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。

2 削除する範囲を指定する

● ［✂□］（前部を削除）か、［□✂］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
● 〈◄►〉押し（早送り）、または〈◎〉を回して（フレーム送り）削除する範囲を指定し、〈SET〉を押します。
● 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部の青色で表示された範囲が残ります。

3 編集内容を確認する

● ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、青色で表示された範囲が再生されます。
● 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
● 編集を中止するときは、［⮌］を選んで〈SET〉を押します。

4 保存する

● ［保存アイコン］を選んで〈SET〉を押します。
➡ 保存画面が表示されます。
● 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。

● 約1秒単位（［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なる場合があります。
● カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
● 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowserを使うと、さまざまな動画編集を行うことができます。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 [スライドショー] を選ぶ

- [▶:]タブの[**スライドショー**]を選び、〈SET〉を押します。

再生する枚数

2 再生する画像を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して図に示した項目を選び、〈SET〉を押します。

[全画像/動画/静止画]

- 〈▲▼〉を押して［**全画像/動画/静止画**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

[日付/フォルダ/レーティング]

- 〈▲▼〉を押して［**日付/フォルダ/レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。

3 ［設定］の内容を設定する

- 〈▲▼〉を押して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**再生間隔**］（静止画）と［**リピート**］（繰り返し再生）、［**切り換え効果**］の設定を行い、〈MENU〉ボタンを押します。

［**再生間隔**］

［**リピート**］

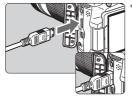
［**切り換え効果**］

4 スライドショーを開始する

- 〈▲▼〉を押して［**スタート**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

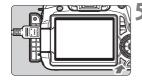
- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し設定画面に戻ります。

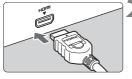
- 一時停止したいときは、〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、再開します。
- 自動再生中に〈**INFO.**〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます。
- 動画再生中に〈メイン電子ダイヤル〉を回すと、音量を調節することができます。
- 一時停止中に〈サブ電子ダイヤル〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、209〜212ページを参照してください。

テレビで見る

撮影した静止画や動画を、テレビなどで見ることができます。ケーブルの接続／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

* 動画の音量はテレビで調整します。
* 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

HD（ハイビジョン）対応のテレビで見る

別売のHDMIケーブル HTC-100が必要です。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する

● プラグの〈**▲HDMI MINI**〉マークがカメラの背面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する

● HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

● 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

● 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。

● 動画の再生方法は、204 ページを参照してください。

● カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。

● テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。その場合は、付属のAVケーブルで接続してください。

● 〈**A/V OUT**〉端子と〈**HDMI OUT**〉端子は、同時に使用できません。

HDMI CEC対応のテレビをお持ちのときは

HDMIケーブルを使って、HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラを接続したとき、テレビのリモコンで再生の操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。

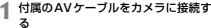
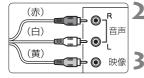
1 ［HDMI機器制御］を選ぶ

- ［▶︎］タブの［HDMI機器制御］を選び、〈SET〉を押します。［入］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ テレビとカメラを接続すると、テレビ側の入力が自動的にカメラを接続しているHDMI端子に切り換わり、カメラの〈▶︎〉ボタンを押すと、テレビのリモコンで画像を再生できます。

静止画再生メニュー

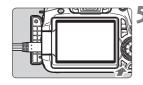
動画再生メニュー

- ⮌ ：戻る
- ⊞ ：9枚インデックス
- ⧉ ：スライドショー
- INFO.：撮影情報の切り換え
- ⟲ ：画像回転
- 🎞 ：動画再生

2 画像を選ぶ

- リモコンをテレビに向け、←/→ ボタンで画像を選び、決定ボタンを押します。
- ➡ メニューが表示されます。表示されるメニューは、静止画と動画で異なります。
- ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。
- ➡ スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。
- ［戻る］を選択し、決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

- テレビによってはHDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくはテレビの使用説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。その場合は、HDMIケーブルを抜いて、カメラのメニュー［▶︎ HDMI機器制御］を［切］にして、カメラ側で操作してください。

HD（ハイビジョン）非対応のテレビで見る

1 付属のAVケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**Canon**〉ロゴが、カメラの前面に向くようにして、〈**A/V OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにAVケーブルを接続する

- AV ケーブルを、テレビの映像入力端子と、音声入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

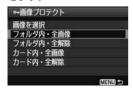
4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 動画の再生方法は、204 ページを参照してください。

- 付属のAVケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。
- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［ビデオ出力方式］で方式を切り換えてください。

保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

2 画像を選んでプロテクトをかける

- ［**画像を選択**］を選び〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈O-n〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈O-n〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了し、メニューに戻ります。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ単位、またはカード単位で、画像にプロテクトをかけることもできます。

メニュー［**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像にプロテクトがかかります。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.48）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.216）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

㿻 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.213）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈㿻〉ボタンを押す

➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

● ［**消去**］を選び〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶̇］タブの［**画像消去**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［選択して消去］を選ぶ

- ［**選択して消去**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈▣·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去したい画像を選び、〈▲▼〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4 消去する

- 〈㎜〉ボタンを押します。
- ［OK］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することもできます。メニュー［▶ **画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.48）。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。

1 ［液晶の明るさ］を選ぶ

● ［🔧］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 明るさを調整する

● グレーチャートを参考にして、〈◄►〉を押して調整し、〈SET〉を押します。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.193）で確認することをおすすめします。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。

2 回転表示を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

- **する 📷 🖥**
  カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **する 🖥**
  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **しない**
  自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

10

撮影した画像を加工する

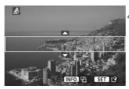
撮影後、画像にフィルター効果を施したり、画像をリサイズ（画素数を少なく）することができます。また、RAW画像の現像をカメラで行うことができます。

- EOS 60D以外で撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンを〈**DIGITAL**〉端子で接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

クリエイティブフィルター

撮影した画像に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。なお、M RAW とS RAW の記録画質で撮影した画像は、フィルター処理を行うことができません。

1 ［クリエイティブフィルター］を選ぶ

- メニュー［クリエイティブフィルター］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- フィルター処理を行う画像を選びます。
- 〈 〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

3 フィルターを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、フィルターの種類が表示されます。
- 〈◄►〉を押してフィルターを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ フィルター効果が反映された画像が表示されます。

4 フィルター効果を調整する

- 〈◄►〉を押してフィルター効果を調整し、〈SET〉を押します。なお、ジオラマ風は〈▲▼〉を押して、くっきり見せたい部分（白枠の中）を選び〈SET〉を押します。

5 保存する

- ［OK］を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- ほかにフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、終了してメニューに戻ります。

- RAW ＋ JPEG で撮影した画像は、RAW 画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- M RAW ＋JPEGとS RAW ＋JPEGで撮影した画像は、JPEG画像を使ってフィルター処理を行います。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ラフモノクロ**

　ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストの調整で、白黒の感じを変えることができます。

- **ソフトフォーカス**

　やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合の調整で、やわらかさの感じを変えることができます。

- **トイカメラ風**

　トイカメラで撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風**

　ジオラマ（情景模型）風の写真になります。くっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で〈INFO.〉ボタンを押すと、くっきり見せたい部分（白枠）の縦／横切り換えを行うことができます。

リサイズ

撮影した画像の画素数を少なくするリサイズ処理を行い、別画像として保存することができます。なお、リサイズ処理は、JPEGのL／M／S1／S2で撮影した画像で行うことができます。JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、リサイズ処理を行うことができません。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- メニュー［リサイズ］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- リサイズ処理を行う画像を選びます。
- 〈⊡·Q〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- 〈◄►〉を押してリサイズする画像サイズを選び、〈SET〉を押します。

4 保存する

- ［OK］を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- ほかにリサイズ処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、終了してメニューに戻ります。

撮影時の記録画質と、リサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ			
	M	S1	S2	S3
L	○	○	○	○
M		○	○	○
S1			○	○
S2				○
S3				

画像サイズについて

手順3で表示される［8.0M 3456×2304］などの数値は、アスペクト比3：2のものです。アスペクト比ごとの画像サイズは表のとおりとなります。なお、「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。また、わずかですが画像がトリミングされます。

記録画質	アスペクト比と画素数			
	3：2	4：3	16：9	1：1
M	3456×2304（800万）	3072×2304（700万）	3456×1944（670万）	2304×2304（530万）
S1	2592×1728（450万）	2304×1728（400万）	2592×1456*（380万）	1728×1728（300万）
S2	1920×1280（250万）	1696×1280*（220万）	1920×1080（210万）	1280×1280（160万）
S3	720×480（35万）	640×480（31万）	720×400*（29万）	480×480（23万）

RAW→JPEG RAW画像をカメラで現像する 応用

RAWで撮影した画像は、カメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま、何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

なお、M RAW、S RAWで撮影した画像はカメラで現像処理できません。付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行ってください。

1 ［RAW現像］を選ぶ

- メニュー［▶ RAW現像］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ RAWで撮影された画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 現像処理を行う画像を選びます。
- 〈▦·Q〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

3 現像処理を行う

- 〈SET〉を押してしばらくすると、現像処理の項目が表示されます（p.226、227）。
- 〈▲▼〉〈◄►〉を押して項目を選び、〈◎〉を回すと内容が切り換わります。
- ➡「明るさ」や「ホワイトバランス」などは、その内容が反映された画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

設定画面表示について

- 〈SET〉を押すと、設定画面が表示されます。〈ダイヤル〉または〈ダイヤル〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと設定され、手順3の画面に戻ります。

4 保存する

- ［保存］（保存）を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。

➡ 手順2の状態に戻ります。

- ほかに現像処理を行いたい画像があるときは、手順2〜4を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、終了してメニューに戻ります。

拡大表示について

手順3で〈拡大〉ボタンを押すと、画像を拡大します。拡大率は、［RAW現像］で設定している［記録画質］の画素数によって異なります。〈十字キー〉で拡大表示位置を変えることができます。なお、現像処理中に［拡大 拡大］が灰色表示されているときは、拡大表示できません。

拡大表示中に〈縮小〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

ライブビュー撮影のアスペクト比で、［4：3］［16：9］［1：1］で撮影した画像は、設定したアスペクト比の画像が表示されます。また、JPEG画像も設定したアスペクト比で保存されます。

現像処理の項目について

● **明るさ補正**

1/3段ステップで、±1段の明るさ補正を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **ホワイトバランス**（p.96）

ホワイトバランスを選ぶことができます。[K]を選んだときは、〈〉を回して色温度数値を設定します。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **ピクチャースタイル**（p.90）

ピクチャースタイルの種類を選ぶことができます。シャープネスなどの設定を行うときは、〈SET〉を押して設定画面を表示します。〈〉を回して項目を選び、〈〉を回して設定します。〈SET〉を押すと設定され、上記の画面に戻ります。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **オートライティングオプティマイザ**（p.101）

オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **高感度撮影時のノイズ低減**（p.254）

ノイズ低減の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈〉ボタンを押して拡大表示で確認します（〈〉ボタンを押すと元に戻ります）。

なお、［**強め**］の効果確認は拡大表示で行ってください。全画面表示では、［**強め**］に設定しても［**標準**］の効果で表示されます。

● **L 記録画質**（p.84）

JPEG画像に変換する際の、画素数と画質を設定します。表示される［**8.0M 3456×2304**］などの数値は、アスペクト比3：2のものです。アスペクト比ごとの画素数は、223ページの表を参照してください。

● sRGB **色空間**（p.110）

　sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

● OFF **周辺光量補正**（p.102）

　［**する**／**しない**］が選択できます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、〈拡大〉ボタンを押して拡大表示で画面四隅を確認します（〈縮小〉ボタンを押すと元に戻ります）。

● OFF **歪曲補正**

　［**する**］を選ぶと、レンズ特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。［**する**］を選ぶと画像が少し大きく表示されるのは、画像の周辺部がカットされるためです（拡大表示ではありません）。付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalを使用すると、最小限の周辺部カットで歪曲補正を行うことができます。

　解像感が少し低下することがありますので、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● 色収差補正

［**する**］を選ぶと、レンズ特性によって起こる倍率色収差を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます（わずかですが、画像の周辺部がカットされます）。効果が分かりにくいときは、〈拡大〉ボタンを押して拡大表示で確認します（〈縮小〉ボタンを押すと元に戻ります）。なお、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行う色収差補正よりも、控えめな補正にしていますので、補正効果が確認できないときがあります。その場合は、Digital Photo Professionalで色収差補正を行ってください。倍率色収差とは、被写体の輪郭部分に現れる色ズレのことです。

- カメラで行うRAW現像の結果と、Digital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- RAW画像にオリジナル画像判定用データ（p.260）が付加されていても、現像後のJPEG画像には、オリジナル画像判定用データ画像は付加されません。

周辺光量補正と歪曲補正、色収差補正について

周辺光量補正と歪曲補正、色収差補正を行うためには、撮影時に使用したレンズのデータがカメラに登録されている必要があります。登録されていないときは、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、レンズデータの登録を行ってください。

11

撮像素子の清掃

このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く､セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。

また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［］タブの［センサークリーニング］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［今すぐクリーニング］を選ぶ

- ［今すぐクリーニング］を選び〈SET〉を押します。
- メッセージ画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［今すぐクリーニング］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［自動クリーニング］を選び、［しない］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

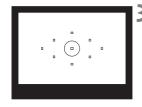
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［ ］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

ダストデリートデータ取得
ソフトウェアでゴミを消すためのデータを取得します。使用説明書を参照してください
更新日時　'00/00/00 00:00
キャンセル　OK

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  ［OK］を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、［OK］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。

1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [🔧] タブの [**センサークリーニング**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [手作業でクリーニング] を選ぶ

- [**手作業でクリーニング**] を選び〈SET〉を押します。

3 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

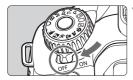
- 電源には、ACアダプターキット ACK-E6（別売）の使用をおすすめします。
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、電源に単3形電池を使用しているときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池室ふたを開ける
  ・カードスロットカバーを開ける
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

12

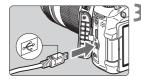
画像の印刷

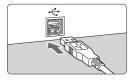
● **印刷**（p.236）

　カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.245）

　カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⭠〉マークが、カメラの背面に向くようにして、〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。

- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble　Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（p.244）。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。なお、A4以上の用紙サイズのときは、RAW画像（M RAW、S RAW除く）から現像したJPEGの◢L画像で印刷することをおすすめします。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約4時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキット ACK-E6（別売）の使用をおすすめします。

〈🖨〉印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈🖨〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面

- 標準設定：印刷効果を設定します（p.240）
- 切：日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 1 枚：何枚印刷するかを設定します
- トリミング：印刷範囲を設定します（p.243）
- 用紙設定：用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- キャンセル：手順1の画面に戻ります
- 印刷：印刷を開始します
- 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

＊ プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

- プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。

➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定

- プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。

➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

- 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。

➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	DPOF（p.245）で印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ・［**20面配置**］では、撮影情報*を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされてしまうことがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなりますので、粒子の粗い写真になることがあります。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 図の項目を選び〈SET〉を押します。
- 印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉横の〈 〉が明るく表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.242）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。242ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⌚〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⧉〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、〈⎙〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、「かんたん印刷」のときは、1枚ずつ印刷されます（印刷枚数は指定できません）。また、トリミングの設定（p.243）は反映されません。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.243）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.51）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について

印刷効果	ナチュラルM
明るさ補正	
レベル補正	切
明るく補正	切
赤目補正	切

240ページの手順4で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈〉が明るく表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈◄►〉を押すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈〉で行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

● 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈⊕〉〈⊞·⊖〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈✥〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈⚙〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、画面上の〈⌂〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

● 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 ［印刷指定］を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選び〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［**印刷タイプ**］

［**日付**］

［**画像番号**］

印刷タイプ	(スタンダード)	スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
	(インデックス)	インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
	(両方)	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入		[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
	切		
画像番号	入		[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。
	切		

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [**画像選択**] [**■指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- [**インデックス**] に設定したときは、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈 〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈 〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

[スタンダード] [両方]

〈▲▼〉を押して、表示されている画像の印刷枚数を指定します。

[インデックス]

〈▲▼〉を押して、〈✓〉を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● 指定

［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 指定／全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

● 236ページを参照してください。
『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶̇] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

● [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.238）

● 印刷効果（p.240）は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

● 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
● プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
● [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
● 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

● [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
● 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
● 印刷中に問題が発生したときは、244ページを参照してください。

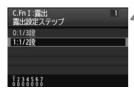
13

カメラをカスタマイズする

カスタム機能でカメラの機能を細かく変更することができます。また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈**C**〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、応用撮影ゾーンで設定、機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 ［］を選ぶ

2 グループを選ぶ

- C.Fn I～IVのいずれかを選び、〈SET〉を押します。

カスタム機能番号

3 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄►〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

4 設定を変更する

- 設定内容（番号）を選び〈SET〉を押します。
- 手順2～4を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能の一括解除を行っても、［**C.Fn IV -4：フォーカシングスクリーン**］の設定内容は保持されます。

MENU カスタム機能一覧 応用

C.Fn I：露出

			LV撮影
1	露出設定ステップ	p.252	○
2	ISO感度設定ステップ		○
3	ISO感度拡張		○
4	ブラケティング自動解除		○
5	ブラケティング順序	p.253	○
6	セイフティシフト		○
7	Avモード時のストロボ同調速度		○

C.Fn II：画像

			LV撮影
1	長秒時露光のノイズ低減	p.254	○
2	高感度撮影時のノイズ低減		○
3	高輝度側・階調優先	p.255	○

C.Fn III：AF・ドライブ

			LV撮影
1	AF測距不能時のレンズ動作	p.255	○（AFQuick）
2	AFフレーム選択方法		
3	スーパーインポーズの表示	p.256	
4	AF補助光の投光		○（AFQuick）
5	ミラーアップ撮影	p.257	

C.Fn IV：操作・その他

			LV撮影
1	AFと測光に関するボタン	p.257	○
2	SETボタンの機能	p.258	○（5除く）
3	Tv/Av値設定時のダイヤル回転		○
4	フォーカシングスクリーン	p.259	
5	オリジナル画像判定用データの付加	p.260	○

- □ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時には機能しません（設定が無効になります）。
- カスタム機能は、動画撮影時にはすべて無効になります。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

1設定時は、ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0：1/3段

1：1段

C.Fn I -3　ISO感度拡張

0：しない

1：する

ISO感度を設定するときに、「**H**」（ISO12800相当）が選択できるようになります。なお、［C.Fn II -3：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定したときは、「**H**」（ISO12800相当）は選択できません。

C.Fn I -4　ブラケティング自動解除

0：する

電源スイッチ〈**OFF**〉、カメラ設定初期化を行うと、AEB、WB-BKTの設定が解除されます。また、ストロボ充電（完了）、動画撮影モードへの切り換えでAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチ〈**OFF**〉を行っても、AEB、WB-BKTの設定が解除されないようになります。（ストロボ充電完了でAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています。）

C.Fn I -5　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→－→＋

1：－→0→＋

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
－ ：マイナス補正	－：ブルー寄りに補正	－：マゼンタ寄りに補正
＋ ：プラス補正	＋：アンバー寄りに補正	＋：グリーン寄りに補正

C.Fn I -6　セイフティシフト

0：しない

1：する（Tv/Av値）

シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）撮影時に機能します。被写体の明るさが急に変化して、適切な自動露出値が得られない場合、設定値をカメラが自動的に変更して、適正露出で撮影することができます。

C.Fn I -7　Avモード時のストロボ同調速度

0：自動

通常は明るさに応じて1/250～30秒が自動設定されます。ハイスピードシンクロも有効です。

1：1/250-1/60秒自動

絞り優先AE（**Av**）モードのストロボ撮影のときに、暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により適正露出になりますが、被写体の背景は暗くなります。

2：1/250秒固定

シャッター速度が1/250秒に固定されるため、1よりも被写体ブレや手ブレを防止することができます。ただし、暗い場所では1よりも被写体の背景が暗くなります。

C.Fn II：画像

C.Fn II -1　長秒時露光のノイズ低減

0：**しない**

1：**自動**

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2：**する**

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 1，2設定時は、撮影後、低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ISO1600以上の高感度で撮影すると、0，1設定時よりも2設定時の方が画像のザラつきが多くなる場合があります。
- 2設定時、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

C.Fn II -2　高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

0：**標準**

1：**弱め**

2：**強め**

3：**しない**

- 2設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。
- RAW とRAW+JPEG 画像をカメラで再生、またはダイレクトプリントすると、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行ってください。

C.Fn II -3　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

　高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

- 1設定時は、オートライティングオプティマイザ（p.101）が［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 1設定時は、通常撮影時より、ノイズが若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります。
また、表示パネルとファインダー内には、高輝度側・階調優先の設定中を示す〈**D+**〉が表示されます。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn III -1　AF測距不能時のレンズ動作

　AFを行ってピントが合わないときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：駆動しない

　再測距を行って大ボケ状態になることを防止することができます。特に大ボケ状態になりやすい、超望遠レンズ使用時に有効です。

C.Fn III -2　AFフレーム選択方法

0：測距点選択に入る／測距点選択

　〈〉ボタンを押したあと、〈〉でAFフレームを選びます。

1：押すと自動選択／任意選択

　〈〉ボタンを押すとAFフレーム自動選択になります。AFフレームの任意選択は、〈〉ボタンを押さずに〈〉で行うことができます。

1設定時は、C.Fn IV -2［**SETボタンの機能**］が無効になります。

C.Fn III -3　スーパーインポーズの表示

0：する

1：しない

ピントが合ったときに、ファインダー内のAFフレームが赤く点灯しません。点灯がわずらわしいときに設定します。

ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn III -4　AF補助光の投光

内蔵ストロボによるAF補助光、EOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

AF補助光は投光されません。

2：外部ストロボの補助光のみ投光

EOS用外部ストロボ使用時は、必要に応じてAF補助光が投光されます。内蔵ストロボからAF補助光は投光されません。

3：赤外光方式の補助光のみ投光

EOS用外部ストロボのAF補助光の中で、赤外光方式のAF補助光だけを投光します。内蔵ストロボと同じ、ストロボ発光方式のAF補助光を投光したくないときに設定します。

EOS用外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、C.Fn III -4-0, 2, 3に設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn III -5　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

望遠レンズを使用した撮影や、近接（マクロ）撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、125ページを参照してください。

C.Fn IV：操作・その他

クイック設定画面（p.45）**の操作ボタンカスタマイズについて**

クイック設定画面で設定できる、操作ボタンカスタマイズの内容は、下記のカスタム機能と同じです。

［**AFと測光に関するボタン**］：C.Fn IV -1
［**AFフレーム選択方法**］：C.Fn III -2
［**SETボタンの機能**］：C.Fn IV -2

C.Fn IV -1　AFと測光に関するボタン

シャッターボタン半押しと、AFスタートボタン、AEロックボタンに割り当てられている機能を変更することができます。組み合わせは10種類で、「測光・AF開始、AEロック、測光開始、AF停止、無効」のいずれかが割り当てられています。

C.Fn IV -2　SETボタンの機能

よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押します。

0：通常（無効）

1：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質の設定画面が表示されます。記録画質を選び〈SET〉を押します。

2：ピクチャースタイル

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイルの選択画面が表示されます。スタイルを選び〈SET〉を押します。

3：ホワイトバランス

〈SET〉を押すと、液晶モニターにホワイトバランスの選択画面が表示されます。ホワイトバランスを選び〈SET〉を押します。

4：調光補正

〈SET〉を押すと、液晶モニターに調光補正の設定画面が表示されます。調光補正を設定し〈SET〉を押します。

5：ファインダー内 -●-

〈SET〉を押すと、ファインダー内に露出レベル表示を利用した水準器が表示されます。

C.Fn III -2-1（AFフレーム選択方法）設定時は、［**SETボタンの機能**］が無効になります。

C.Fn IV -3　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

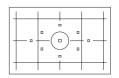
シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

マニュアル露出時は〈メイン電子ダイヤル〉〈サブ電子ダイヤル〉、それ以外の撮影モードでは〈メイン電子ダイヤル〉による設定方向が反転します。マニュアル露出時と、露出補正時の〈サブ電子ダイヤル〉による設定方向が同じになります。

C.Fn IV -4　フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンを交換したときは、適切な露出で撮影するため、使用するスクリーンのタイプに応じて、設定変更を行ってください。

0：Ef-A
1：Ef-D
2：Ef-S

フォーカシングスクリーンの特性について

Ef-A：標準プレシジョンマット
購入時のカメラに組み込まれている標準フォーカシングスクリーンです。ファインダーの明るさと、手動ピント合わせのしやすさをバランスよく両立しています。

Ef-D：方眼プレシジョンマット
Ef-Aに方眼線を引いたフォーカシングスクリーンです。構図の垂直・水平決めを楽に行うことができます。

Ef-S：スーパープレシジョンマット
Ef-Aよりもピントの山をつかみやすくしたフォーカシングスクリーンです。手動ピント合わせを主にされているかたに有効です。

スーパープレシジョンマットEf-Sとレンズの開放絞り数値について
- F2.8以上の明るいレンズに最適化されています。
- F2.8より暗いレンズを使用すると、標準スクリーンEf-A装着時よりもファインダーが暗くなります。

- カスタム機能一括解除を行っても、設定内容は保持されます。
- EOS 60D の標準フォーカシングスクリーンはEf-Aですので、購入時の状態はC.Fn IV -4-0に設定されています。
- フォーカシングスクリーンの交換方法については、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。なお、フォーカシングスクリーンがホルダーと一緒に降りてこないときは、カメラを手前に起こしてください。
- C.Fn IV -4の設定は、カメラユーザー設定の登録内容（p.262）に含まれません。

C.Fn IV -5　オリジナル画像判定用データの付加

0：しない

1：する

　撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.191）で再生すると、〈🔒〉が表示されます。

　オリジナル画像の判定には、オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3（別売）が必要です。

オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3の画像暗号化・復号機能には、対応していません。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録することができます。

1 [マイメニューの設定] を選ぶ

- [★] タブの [**マイメニューの設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [マイメニューへの登録] を選ぶ

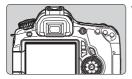
- [**マイメニューへの登録**] を選び〈SET〉を押します。

3 登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆] が表示された状態で〈▲▼〉を押して並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **選択して削除／全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**全項目削除**] を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

- **マイメニューから表示**

  [**する**] に設定すると、メニュー画面を表示したときに [★] タブから表示されます。

C: カメラユーザー設定の登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、現在カメラに設定されているほとんどの内容を、モードダイヤルの〈C〉にカメラユーザー設定として登録することができます。

1 カメラを設定する

- 撮影モードとシャッター速度、絞り数値、ISO感度、AFモード、AFフレーム、測光モード、ドライブモード、露出補正量、ストロボ調光補正量の中から、登録しておきたい項目をあらかじめ設定しておきます。
- メニュー機能は、次ページを参照して設定しておきます。

2 [カメラユーザー設定] を選ぶ

- [🔧] タブの [**カメラユーザー設定**] を選び、〈SET〉を押します。

3 [登録] を選ぶ

- [**登録**] を選び〈SET〉を押します。

4 [OK] を選ぶ

- 確認画面で [**OK**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カメラの設定内容がモードダイヤルの〈C〉に登録されます。

カメラユーザー設定の登録解除

手順3で [**登録解除**] を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。

メニュー機能で登録できる設定内容

［撮影1］ 記録画質、電子音、カードなしレリーズ、撮影画像の確認時間、周辺光量補正、赤目緩和機能、ストロボ制御（ストロボの発光、シンクロ設定、調光補正、E-TTL II 調光方式、ワイヤレス機能）

［撮影2］ 露出補正/AEB設定、オートライティングオプティマイザ、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間

［撮影3］ ISOオート

［撮影4］ ライブビュー撮影、AF モード、グリッド、アスペクト比、露出Simulation、静音撮影、測光タイマー

［再生2］ ハイライト警告表示、AFフレーム表示、ヒストグラム、メイン電子ダイヤルでの画像送り、スライドショー

［設定1］ オートパワーオフ、縦位置画像回転表示、画像番号

［設定2］ 液晶の明るさ、センサークリーニング（自動クリーニング）、サブ電子ダイヤルロック

［設定3］ INFO.ボタンで表示する内容

［カスタム機能］ カスタム機能

- マイメニューの設定内容は、登録されません。
- モードダイヤルが〈C〉のときは、メニューの［設定3 カメラ設定初期化］と［カスタム機能 カスタム機能（C.Fn）一括解除］は、選択できません。

- モードダイヤルが〈C〉のときも、ドライブモードやメニューなどの設定を変更することができますが、登録はされません。変更内容を登録したいときは、前ページのカメラユーザー設定の登録操作を行ってください。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、〈C〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.266）。

14

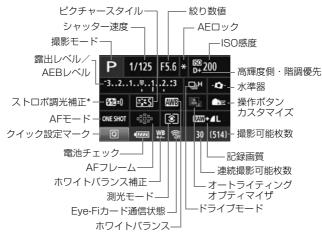
資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

INFO.ボタンの機能

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」と「撮影機能の設定状態」(p.267)、[水準器](p.127)を表示することができます。

[¥:]タブの[INFO.ボタンで表示する内容]で、〈INFO.〉ボタンを押して表示する項目を選ぶことができます。

- 使用する項目を選び、〈SET〉を押して〈✓〉マークを付けます。
- 選択が終わったら[OK]を選び、〈SET〉を押します。なお、3項目すべての〈✓〉マークを外すことはできません。

- [カメラ設定の内容]のサンプル画面は、どの言語でも英語版が表示されます。
- [水準器]を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影と動画撮影では水準器が表示されます。

カメラ設定の内容

撮影機能の設定状態

* 外部ストロボ側で調光補正を設定すると、ストロボ調光補正のマークが、から
に変わります。

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定画面（p.44）になります。
- 〈AF〉、〈DRIVE〉、〈ISO〉、〈測光〉、〈AFフレーム〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉で設定を行うことができます。AFフレームは〈マルチコントローラー〉で選択することもできます。

「撮影機能の設定状態」の画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して液晶モニターに画面が表示されていない状態で電源を切ります。

MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池の残容量や、使用履歴を画面で確認することができます。

[バッテリー情報] を選ぶ

- [🔧:] タブの [**バッテリー情報**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報の画面が表示されます。

電池位置

- 使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。
- 残量が、電池チェック表示（p.29）とともに、1%単位で表示されます。
- 使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
- 電池の劣化状態が3段階で表示されます。
  - ■■■（緑）：劣化していません
  - ■■□（緑）：少し劣化しています
  - ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

バッテリーパック LP-E6以外の電池は使用しないでください。カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- バッテリーグリップ BG-E9に、バッテリーパック LP-E6を入れたときも、電池情報が表示されます。
- バッテリーグリップ BG-E9に単3形電池を使用したときは、電池チェック表示の情報のみ表示されます。
- 何らかの原因で電池と通信できないときは、表示パネルとファインダー内の電池チェックが〈 ▭ 〉の表示になります。[**バッテリーと通信できません**] と表示されますが、[OK] を選ぶとそのまま撮影できます。

電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。

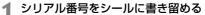
1 〈INFO.〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 使用履歴画面が表示されます。
- ➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。

2 [登録] を選ぶ

- [登録] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

3 [OK] を選ぶ

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➡ 表示が灰色から白色に変わります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

- バッテリーグリップ BG-E9に単3形乾電池を装填しているときや、電源にACアダプターキット ACK-E6を使用しているときは登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは、[登録] は選べません。271ページを参照して、不要な電池情報を削除してください。

電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。

1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。

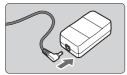
2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- BG-E9使用時は、バッテリーマガジンへの取り付け/取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していない電池の残容量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残容量や前回使用した日を、画面で確認することができます。

シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。
- ➡ 手元にある電池のおおよその残容量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 ［情報消去］を選ぶ

- 269ページの手順2で［**情報消去**］を選び、〈SET〉を押します。

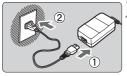
2 消去する電池を選ぶ

- 消去する電池を選び〈SET〉を押します。
- ➡〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

3 〈🗑〉ボタンを押す

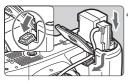
- ➡ 確認画面が表示されます。

4 ［OK］を選ぶ

- ［**OK**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

家庭用電源を使用する

ACアダプターキット ACK-E6（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。

DCカプラーコード通し部

4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら、画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードしたりできます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

1 Eye-Fiカードを入れる（p.32）

2 ［Eye-Fi設定］を選ぶ

- ［🔧］タブの［Eye-Fi設定］を選び、〈SET〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカード装着時のみ表示されます。

3 通信機能を有効にする

- 〈SET〉を押し、［Eye-Fi通信］の［する］を選び、〈SET〉を押します。
- ［しない］を選ぶと、Eye-Fiカードを装着していても、自動転送されません（通信状態マーク）。

4 通信情報一覧を表示する

- ［**通信情報一覧**］を選び〈SET〉を押します。

5 ［接続先のSSID:］を確認する

- ［**接続先のSSID:**］に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈MENU〉ボタンを３回押してメニューを終了します。

6 撮影する

- ➡ 画像が転送されます。
- 転送した画像には、再生の詳細情報表示（p.191）にが表示されます。

通信状態マーク

（グレー）**未接続**：転送先に接続していません。
（点滅）**接続中**　：転送先に接続しています。
（点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
（↑）**転送中**　　：画像を転送しています。

* 上記のようにEye-Fiカードの通信状態を確認するときは、〈INFO.〉ボタンを押して撮影機能の設定状態（p.267）を表示させます。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- 「」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れ直してください。
- ［**Eye-Fi通信**］を［**しない**］に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態によっては、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- バッテリーの消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン					[動画]	
		□	[ストロボ発光禁止]	CA	[ポートレート]	[風景]	[クローズアップ]	[スポーツ]	[夜景ポートレート]	P	Tv	Av	M	B	[動画]	[静止画]
全記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
ISO感度	自動設定	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	
	手動設定									○	○	○	○	○	○*	
	オートの上限値設定									○	○	○	○	○		
ピクチャースタイル	任意選択									○	○	○	○	○	○	
	自動設定	[S]	[S]	[S]	[P]	[L]	[S]	[S]	[S]							
雰囲気を選んで撮影する				○	○	○	○	○	○							
明かりや状況にあわせて撮影する					○	○	○	○								
ホワイトバランス	オート	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	
	プリセット									○	○	○	○	○	○	
	マニュアル									○	○	○	○	○	○	
	補正、ブラケティング									○	○	○	○	○		
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	
周辺光量補正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
高輝度側・階調優先										○	○	○	○	○	○	
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○		
	Adobe RGB									○	○	○	○	○		
RAW現像										○	○	○	○	○	○	
クリエイティブフィルター		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
リサイズ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
レーティング		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

* マニュアル露出時のみ

● [静止画]は、動画撮影モードでの静止画撮影を示しています。

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン					[動画]	
		[全自動]	[ストロボ発光禁止]	CA	[ポートレート]	[風景]	[クローズアップ]	[スポーツ]	[夜景ポートレート]	P	Tv	Av	M	B	[動画]	[静止画]
AF	ワンショット				●	●	●		●	○	○	○	○	○	●	
	AIサーボ							●		○	○	○	○	○		
	AIフォーカス	●	●	●						○	○	○	○	○		
	AFフレーム選択	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	AFQuick	
	AF補助光	●		●	●		●		●	○	○	○	○	○		
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○		
	測光モード選択									○	○	○	○	○		
露出	プログラムシフト									○						
	露出補正									○	○	○			○	
	AEB									○	○	○	○			
	AEロック									○	○	○			○	
	被写界深度確認									○	○	○	○	○		
ドライブ	1枚撮影	●	●	○		●	●		●	○	○	○	○	○		○
	高速連続撮影							●		○	○	○	○	○		○
	低速連続撮影			○	●					○	○	○	○	○		○
	[セルフタイマー]10秒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	[セルフタイマー]2秒									○	○	○	○	○	○	
内蔵ストロボ	自動発光	●		○	●		●		●							
	常時発光			○						○	○	○	○	○		
	発光禁止		●	○		●		●		○	○	○	○	○	●	
	赤目緩和	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	FEロック									○	○	○	○	○		
	ストロボ調光補正									○	○	○	○	○		
	ワイヤレス制御									○	○	○	○	○		
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
マルチアスペクト*										○	○	○	○	○		

* マルチアスペクトは、ライブビュー撮影時のみ可能

メニュー機能一覧

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	L／L／M／M／S1／S1／S2／S3 RAW／M RAW／S RAW	84
電子音	入／切	–
カードなしレリーズ	する／しない	32
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	50
周辺光量補正	する／しない	102
赤目緩和機能	切／入	131
ストロボ制御	ストロボの発光／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／外部ストロボカスタム機能一括解除	135

撮影2（赤）

露出補正／AEB設定	1/3段ステップ、±5段（AEB±3段）	121
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	101
ピクチャースタイル	Sスタンダード／Pポートレート／L風景／Nニュートラル／F忠実設定／Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	90～95
ホワイトバランス	AWB／☀／／／／／／／K（約2500～10000）	96
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	97
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 WB-BKT：ホワイトバランスブラケティング	99 100
色空間	sRGB／Adobe RGB	110

撮影3（赤）

ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理するためのデータを取得	231
ISOオート	上限400／上限800／上限1600／上限3200／上限6400	89

□ の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。

撮影4（赤）

		参照頁
ライブビュー撮影	する／しない	157
AFモード	ライブモード／顔ライブモード／クイックモード	160
グリッド	表示しない／グリッド1 ♯／グリッド2 ♯	157
アスペクト比	3：2／4：3／16：9／1：1	157
露出Simulation	する／しない	158
静音撮影	モード1／モード2／しない	159
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	159

再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	213
画像回転	画像の縦横回転	197
画像消去	画像の消去	215
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	245
クリエイティブフィルター	ラフモノクロ／ソフトフォーカス／トイカメラ風／ジオラマ風	220
リサイズ	画素数を少なく処理	222
RAW現像	RAWで撮影した画像を現像	224

再生2（青）

ハイライト警告表示	しない／する	192
AFフレーム表示	しない／する	193
ヒストグラム	輝度／RGB	193
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	195
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピート／切り換え効果を設定して自動再生	207
レーティング	[OFF] ／[*]／[**]／[***]／[****]／[*****]	198
HDMI機器制御	切／入	211

機能設定1（黄）

		参照頁
オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／切	50
縦位置画像回転表示	する／する／しない	218
カード初期化	記録内容を初期化して消去	48
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	106
フォルダ選択	フォルダの作成と選択	104
Eye-Fi設定*	Eye-Fi通信：しない／する 通信情報一覧	273

* Eye-Fiカード装着時のみ表示されます。

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	7段階の明るさ調整	217
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	30
言語	表示言語を選択	31
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	212
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	230
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	233
ロック	しない／する	42

機能設定3（黄）

バッテリー情報	型式、残容量、撮影回数、劣化度、電池の登録、使用履歴確認	268
INFO.ボタンで表示する内容	カメラ設定の内容／水準器／撮影機能の設定状態	266
カメラユーザー設定	モードダイヤルの〈**C**〉に現在のカメラ設定を登録	262
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／ 著作権者名入力／著作権情報の消去	108
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	51
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	−

カスタム機能（橙）

		参照頁
C.Fn I ：露出	カメラの機能を細かく設定する	252
C.Fn II：画像		254
C.Fn III：AF・ドライブ		255
C.Fn IV：操作・その他		257
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	250

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	261

動画撮影モードのメニュー機能

動画1（赤）

動画撮影モード	自動露出／マニュアル露出	182
AFモード	ライブモード／顔ライブモード／クイックモード	182
動画記録中のシャッターボタンAF	しない／する	182
動画のAFと測光に関するボタン	シャッターボタン、〈AF-ON〉ボタン、〈✱〉ボタンの機能をカスタマイズ	183
動画ISO感度設定ステップ	1/3段／1段	183
動画高輝度側・階調優先	しない／する	183

動画2（赤）

		参照頁
動画記録サイズ	1920×1080（30／25／24）／ 1280×720（60／50）／ 640×480（60／50）／ クロップ 640×480（60／50）	180
録音	録音：オート／マニュアル／しない	184
	録音レベル	
	ウィンドカット：切／入	
静音撮影	モード1／モード2／しない	185
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	185
グリッド	表示しない／グリッド1 ♯／グリッド2 ♯♯	185

動画3（赤）

露出補正	1/3段ステップ、±5段	186
オートライティング オプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	186
ピクチャースタイル	Sスタンダード／Pポートレート／ L風景／Nニュートラル／F忠実設定 ／Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	186
ホワイトバランス	AWB／☀／⌂／☁／☀／▥／ϟ／▲／ K（約2500～10000）	186
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	186

動画撮影モード設定時のメニュー画面について

- ［動画］動画1、［動画］動画2、［動画］動画3の画面（タブ）は、動画撮影モード設定時のみ表示されます。
- ［撮影］撮影2、［撮影］撮影3、［撮影］撮影4、［カスタム］カスタム機能、［★］マイメニューの画面（タブ）は表示されません。
- 以下のメニュー項目は表示されません。
  - ・［撮影］：赤目緩和機能、ストロボ制御
  - ・［設定］：INFO. ボタンで表示する内容、カメラユーザー設定、著作権情報、カメラ設定初期化、ファームウェア

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- バッテリー残容量（p.268）が94％以上のときは、充電は行われません。
- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は故障ですので、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.26）。
- 電池を充電してください（p.24）。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.26）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.32）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.24）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。メニュー［**バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.268）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- クイック設定画面を表示したままにしたり（p.44）、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと（p.151、171）、撮影可能枚数が少なくなります。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

撮影関連

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.32）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.32、215）。
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.40、80）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な設定にしてください（p.32）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、33ページ、または291ページを参照してください。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.34）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.39、40）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- ［**C.Fn II -2：高感度撮影時のノイズ低減**］を［**標準/弱め/しない**］のいずれかに設定してください。［**強め**］に設定されているときは、連続撮影可能枚数（バースト枚数）が大幅に少なくなります（p.254）。
- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、85ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

- ［**C.Fn II -3：高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO100に設定できません。［**しない**］に設定すると、ISO100が設定できるようになります（p.255）。動画撮影時も同様です（p.183）。

オートライティングオプティマイザが設定できない

- ［**C.Fn II -3：高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。［**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります（p.255）。動画撮影時も同様です（p.183）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［C.Fn I -7：Avモード時のストロボ同調速度］を、1または2に設定してください（p.253）。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

Avモード時にハイスピードシンクロができない

- ［C.Fn I -7：Avモード時のストロボ同調速度］を［0：自動］に設定してください（p.253）

外部ストロボが発光しない

- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、メニュー［静音撮影］を［しない］に設定してください（p.159）。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.153）。

操作部の機能が入れ替わっている

- クイック設定画面で［**操作ボタンカスタマイズ**］の内容を確認してください（p.257）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 1カットのファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

ライブビュー撮影と動画撮影時に、白い〈温度マーク〉と赤い〈温度マーク〉が表示される

- どちらもカメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈温度マーク〉マークが表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈温度マーク〉マークが表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影、または動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.152、173）。

動画が一瞬止まることがある

- 自動露出の動画撮影では、大きな露出変化が生じた場合、明るさが安定するまで記録を止める仕様にしています。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。

動画が再生できない

- 付属のソフトウェアなどを使用して、パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販のマイクの使用をおすすめします（p.187）。

表示・操作関連

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターがよごれているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンと動画撮影モードでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（p.46）。

画像を消去できない

- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません（p.213）。

画像の一部が黒く点滅する

- メニュー［▶: ハイライト警告表示］が［する］に設定されています（p.192）。

画像に赤い枠が表示される

- メニュー［▶: AFフレーム表示］が［する］に設定されています（p.193）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_MG_」）になる

● 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.110）。

画像番号が0001から始まらない

● 画像が記録されているカードを使用すると、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります（p.106）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

● 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.30）。

テレビに画像が表示されない

● AVケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.209、212）。
● ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.212）。
● 付属のAVケーブルを使用してください（p.212）。

カードリーダーで、カードを認識できない

● お使いのカードリーダーや、パソコンのOSのバージョンによっては、SDXCカードをカードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください。

[♯♯♯] が表示される

- 画像の数が、表示できる桁数を超えると［♯♯♯］表示を行うようにしています。

[Eye-Fi設定] が表示されない

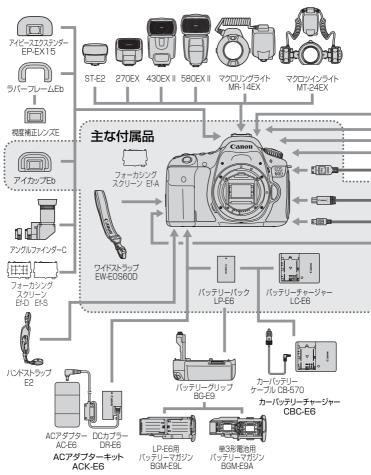
- ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にしたりする機能が使えません。

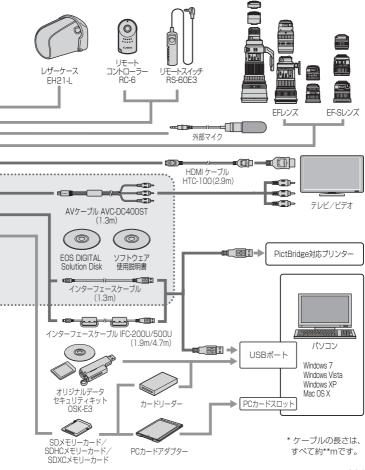
印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.240）。

エラー表示

エラー番号

原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

<table>
<tr><th>番号</th><th>メッセージ／対処方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">01</td><td>カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください</td></tr>
<tr><td>➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.13、16）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">02</td><td>カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください</td></tr>
<tr><td>➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.32、48）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">04</td><td>カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください</td></tr>
<tr><td>➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.32、48、215）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">05</td><td>内蔵ストロボをポップアップできませんでした。電源スイッチを入れなおしてください</td></tr>
<tr><td>➔ 電源スイッチ操作（p.28）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">06</td><td>センサークリーニングができませんでした。電源スイッチを入れなおしてしてください</td></tr>
<tr><td>➔ 電源スイッチ操作（p.28）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">10, 20
30, 40
50, 60
70, 80</td><td>エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください</td></tr>
<tr><td>➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.26、28）</td></tr>
</table>

＊上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

システム図

アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
アングルファインダーC
フォーカシング
スクリーン
Ef-D Ef-S
ハンドストラップ
E2
ST-E2
270EX
430EX II
580EX II
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
主な付属品
フォーカシング
スクリーン Ef-A
ワイドストラップ
EW-EOS60D
バッテリーパック
LP-E6
バッテリーチャージャー
LC-E6
バッテリーグリップ
BG-E9
カーバッテリー
ケーブル CB-570
カーバッテリーチャージャー
CBC-E6
ACアダプター
AC-E6
DCカプラー
DR-E6
ACアダプターキット
ACK-E6
LP-E6用
バッテリーマガジン
BGM-E9L
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E9A

* ケーブルの長さは、
すべて約**mです。

主な仕様

■型式

型式.................................... ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................ SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード
撮像画面サイズ .... 22.3×14.9mm
使用レンズ......................... キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント .... キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式.................................... CMOSセンサー
カメラ部有効画素 約1800万画素
アスペクト比 .... 3：2
ダスト除去機能 .... 自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット DCF2.0
画像タイプ......................... JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数......................... L（ラージ）　　　：約1790万（5184×3456）画素
M（ミドル）　　　：約800万（3456×2304）画素
S1（スモール1）：約450万（2592×1728）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）　　　：約1790万（5184×3456）画素
M-RAW　　　　　：約1010万（3888×2592）画素
S-RAW　　　　　　：約450万（2592×1728）画素
フォルダ作成／選択.......... 可能

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル.......... スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
表現セレクト機能 .... 雰囲気を選んで撮影する、明かりや状況にあわせて撮影する
ホワイトバランス .... オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K）、ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* 色温度情報通信対応
ノイズ低減......................... 長秒時露光、高感度撮影に対応

画像の明るさ自動補正......オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先..........可能
レンズ周辺光量補正..........可能

■ファインダー

方式.....................................ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率..................................上下/左右とも約96%（アイポイント約22mm時）
倍率.....................................約0.95倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント ....約22mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲 ....約－3.0～+1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン...交換式（別売2種類）、Ef-A標準装備
水準器表示 ....水平方向1°ステップ ±9°（横位置撮影時のみ）
ミラー..................................クイックリターン式
被写界深度確認..................可能

■オートフォーカス

方式.....................................TTL二次結像位相差検出方式
測距点..................................9点（全点クロス測距）
輝度範囲.............................EV－0.5～18（常温・ISO100）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AF補助光 ....内蔵ストロボ間欠発光方式

■露出制御

測光方式.............................63分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6.5%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約2.8%）
・中央部重点平均測光
測光範囲.............................EV 1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式 ....プログラムAE（全自動、ストロボ発光禁止、クリエイティブ全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ
ISO感度................................かんたん撮影ゾーン：ISO 100～3200自動設定
（推奨露光指数） 応用撮影ゾーン： ISO 100～6400任意設定（1/3段ステップ）、ISO100～6400自動設定、および「H」（ISO12800相当）の感度拡張が可能

露出補正............................ 手動 ：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB ：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）
AEロック.......................... 自動 ：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動 ：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式.................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 .... 1/8000～1/60秒（全自動モード）、
ストロボ同調最高シャッター速度＝1/250秒
1/8000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）

■ストロボ

内蔵ストロボ .... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
ガイドナンバー約13（ISO 100・m）
焦点距離約17mm相当の画角に対応
充電時間約3秒
ワイヤレスマスター機能装備
外部ストロボ .... EXシリーズスピードライト(カメラ側操作で機能設定可能)
調光方式............................ E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 .... 1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック .... 可能
シンクロ端子 .... なし

■ドライブ関係

ドライブモード .... 1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、セルフタイマー10秒/リモコン、セルフタイマー 2秒/リモコン
連続撮影速度 最高約5.3コマ/秒
連続撮影可能枚数 .... JPEGラージ/ファイン：約58枚
RAW：約16枚
RAW+JPEGラージ/ファイン：約7枚
* 当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定

■ライブビュー撮影機能

アスペクト比切り換え......3：2、4：3、16：9、1：1
フォーカス........................ライブモード、顔優先ライブモード（コントラスト検出方式）
クイックモード（位相差検出方式）
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
測光方式............................撮像素子による評価測光
測光範囲............................EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
静音撮影............................可能（モード1、2）
グリッド表示....................2種類

■動画撮影機能

映像圧縮方式....................MPEG-4 AVC/H.264
可変（平均）ビットレート方式
音声記録方式....................リニアPCM
記録形式............................MOV形式
記録サイズと
フレームレート.................1920×1080（Full HD）：30p/25p/24p
1280×720（HD）：60p/50p
640×480（SD）：60p/50p
クロップ640×480（SD）：60p/50p
* 30p：29.97fps、25p：25.00fps、24p：23.976fps、60p：59.94fps、50p：50.00fps
ファイルサイズ.................1920×1080（30p/25p/24p）：約330MB/分
1280×720（60p/50p）：約330MB/分
640×480（60p/50p）：約165MB/分
クロップ640×480（60p/50p）：約165MB/分
フォーカス........................ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
測光方式............................撮像素子による中央部重点平均測光と評価測光
* フォーカスモードにより自動設定
測光範囲............................EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御............................動画撮影用プログラムAE（露出補正可能）、マニュアル露出
露出補正............................1/3段ステップ±3段（静止画±5段）
ISO感度............................ISO100～6400自動設定
（推奨露光指数）　マニュアル露出時ISO100～6400自動/手動設定

録音....................................内蔵モノラルマイク
外部ステレオマイク端子装備
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能あり
グリッド表示.....................2種類

■液晶モニター

形式....................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数.......ワイド3.0型（3：2）/約104万ドット
視野率................................約100%
角度調整.............................可能
明るさ調整.........................手動（7段階）
水準器................................1°ステップで水平方向の傾きを表示
メニュー表示言語 ....日本語、英語

■再生機能

画像表示形式.....................1枚、1枚＋情報（簡易情報、詳細情報、ヒストグラム）、4枚インデックス、9枚インデックス、画像回転可能
拡大ズーム倍率.................約1.5～10倍
画像表示検索.....................1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
ハイライト警告.................ハイライト部分点滅表示
スライドショー.................全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/レーティング
切り換え効果を3種類選択可能
動画再生.............................可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）
スピーカー内蔵

■撮影後の画像処理

カメラ内RAW現像...........明るさ調整、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、周辺光量補正、歪曲補正、色収差補正
クリエイティブフィルター....ラフモノクロ、ソフトフォーカス、トイカメラ風、ジオラマ風
リサイズ.............................可能
レーティング.....................可能

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター.................PictBridge対応プリンター
印刷対応画像.....................JPEG画像、RAW画像
印刷指定.............................DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能 20種
カメラユーザー設定..........モードダイヤルのCに登録
マイメニュー登録..............可能
著作権情報 ....設定と付加可能

■インターフェース

映像/音声出力・
デジタル端子 ....アナログ映像（NTSC, PAL対応）/ステレオ音声出力
パソコン通信、ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB相当）
HDMIミニ出力端子..........タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子..........Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子 リモートスイッチRS-60E3用
ワイヤレスリモコン..........リモートコントローラー RC-6に対応

■電源

使用電池.............................バッテリーパック LP-E6、1個
* ACアダプターキット ACK-E6使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップ BG-E9装着時、単3形電池使用可能
電池情報.............................残容量、撮影回数、劣化度確認可能
撮影可能枚数の目安..........ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による） 常温（23℃）約1100枚/低温（0℃）約1000枚
ライブビュー撮影：
常温（23℃）約320枚/低温（0℃）約280枚
動画撮影可能時間..............常温（23℃）約2時間
低温（0℃）約1時間40分
（フル充電のバッテリーパック LP-E6使用時）

■大きさ・質量

大きさ.................................約144.5（幅）×105.8（高さ）×78.6（奥行）mm
質量....................................約755g（CIPAガイドラインによる）/約675g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度 ....0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下

■バッテリーパック LP-E6

形式..................................リチウムイオン電池
公称電圧............................DC7.2V
容量..................................1800mAh
大きさ...............................約38.4（幅）×21.0（高さ）×56.8（奥行）mm
質量..................................約80g

■バッテリーチャージャー LC-E6

充電可能電池.....................バッテリーパック LP-E6
充電時間............................約2時間30分
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
定格出力............................DC8.4V/1.2A
使用可能温度.....................+5℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下
大きさ...............................約69.0（幅）×33.0（高さ）×93.0（奥行）mm
質量..................................約130g

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II

画角..................................対角線：74°20′～27°50′
水平：64°30′～23°20′
垂直：45°30′～15°40′
構成枚数............................9群11枚
最小絞り............................F22-36
最短撮影距離.....................0.25m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.34倍（55mm時）
画界..................................207×134mm～67×45mm（0.25m時）
手ブレ補正機能.................レンズシフト式
フィルター径.....................58mm
レンズキャップ.................E-58
最大径×長さ.....................約68.5×70.0mm
質量..................................約200g
対応フード........................EW-60C（別売）
対応ケース........................LP814（別売）

■EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM

画角....................................対角線：84°30′～18°25′
水平：74°10′～15°25′
垂直：53°30′～10°25′
構成枚数............................12群17枚
最小絞り............................F22-36
最短撮影距離.....................0.35m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.21倍（85mm時）
画界....................................255×395mm～72×108mm（0.35m時）
手ブレ補正機能..................レンズシフト式
フィルター径.....................72mm
レンズキャップ..................E-72U
最大径×長さ.....................約81.6×87.5mm
質量....................................約575g
対応フード.........................EW-78E（別売）
対応ケース.........................LP1116（別売）

■EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS

画角....................................対角線：74°20′～11°30′
水平：64°30′～9°30′
垂直：45°30′～6°20′
構成枚数............................12群16枚
最小絞り............................F22-36
最短撮影距離*...................焦点距離18mm：0.49m（画界327×503mm）
焦点距離135mm：0.45m（画界75×112mm）
* 撮像面からの距離
最大撮影倍率.....................0.21倍（135mm時）
手ブレ補正機能..................レンズシフト式
フィルター径.....................67mm
レンズキャップ..................E-67
最大径×長さ.....................約75.4×101.0mm
質量....................................約455g
対応フード.........................EW-73B（別売）
対応ケース.........................LP1116（別売）

■EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS

画角...................................対角線：74°20′～7°50′
水平：64°30′～6°30′
垂直：45°30′～4°20′
構成枚数...........................12群16枚
最小絞り...........................F22-36
最短撮影距離....................0.45m（撮像面から）
最大撮影倍率....................0.24倍（200mm時）
画界...................................452×291mm～93×62mm（0.45m時）
手ブレ補正機能................レンズシフト式
フィルター径....................72mm
レンズキャップ................E-72
最大径×長さ....................約78.6×102.0mm
質量...................................約595g
対応フード........................EW-78D（別売）
対応ケース........................LP1116（別売）

■EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM

画角...................................対角線：78°30′～18°25′
水平：68°40′～15°25′
垂直：48°00′～10°25′
構成枚数...........................12群17枚
最小絞り...........................F22-32
最短撮影距離....................0.35m（撮像面から）
最大撮影倍率....................0.2倍（85mm時）
画界...................................328×219mm～112×75mm（0.35m時）
手ブレ補正機能................レンズシフト式
フィルター径....................67mm
レンズキャップ................E-67U
最大径×長さ....................約78.5×92.0mm
質量...................................約475g
対応フード........................EW-73B（別売）
対応ケース........................LP1116（別売）

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、最大径、長さ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーパック LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

周辺のAFフレームが縦線、または横線検出測距になるレンズ

以下のレンズでは、左右6点のAFフレームが横線検出測距、上下2点のAFフレームが縦線検出測距になります。十字測距は、中央AFフレームでのみ行うことができます。

EF35-80mm F4-5.6
EF35-80mm F4-5.6 II
EF35-80mm F4-5.6 III
EF35-80mm F4-5.6 USM
EF35-105mm F4.5-5.6
EF35-105mm F4.5-5.6 USM
EF80-200mm F4.5-5.6 II
EF80-200mm F4.5-5.6 USM

ソフトウェアスタートガイド／索引

EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア
使用説明書

ソフトウェアスタートガイド

イオス デジタル ソリューション ディスク EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアが収録されています。

イオス ユーティリティー EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うことができるソフトウェアです。

デジタル フォト プロフェッショナル Digital Photo Professional

主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したままで編集することができます。

ズームブラウザー イーエックス ZoomBrowser EX (Win)／イメージブラウザー ImageBrowser (Mac)

主にJPEG画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。簡単な操作で、JPEG画像の閲覧／編集／整理／分類／印刷などができます。また、MOV動画の再生／編集／静止画の取り出しなどを行うこともできます。

ピクチャー スタイル エディター Picture Style Editor

画像処理上級者向けのソフトウェアです。ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。

ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。インストールが正しく行われません。
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合でも、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 EOS DIGITAL Solution Disk （CD）を入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［Canon EOS Digital Installer］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

- Macintoshでは、［インストール］をクリックしてください。

3 ［再起動］をクリックし、再起動したらCDを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。

ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアの使用説明書が収録されています。

使用説明書PDFファイルのコピー方法と見かた

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCDを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、［**マイコンピューター**］内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン

3 ［Japanese］フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
ZoomBrowser EX／ImageBrowser	ZBx.xW_J_xx	IBx.xM_J_xx
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（バージョン6.0以上）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

索　引

英数字

あ

か

た

な

は

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00〜20：00
土・日・祝日 10：00〜17：00
（1月1日〜1月3日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2010年8月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH - J045 - 004